

第 28 回 日本外来小児科学会 年次集会

＜総合の知＞を求めて～現場からの情報発信～

ガイドブック

会 期 2018 年 8 月 24 日(金) ～ 26 日(日)

会 場 東京国際フォーラム 東京都千代田区丸の内 3-5-1

会 頭 黒木 春郎(医療法人社団嗣業の会 外房こどもクリニック)

実行委員長 涌水 理恵(筑波大学 医学医療系 小児保健看護学)

事務局 長 齊藤 匡 (国保多古中央病院 小児科)

公式ウェブサイト <http://web.apollon.nta.co.jp/sagpj28/>

CONTENTS

1. 会頭挨拶	1
2. 年次集会概要	2
3. タイムスケジュール	4
4. 会場アクセス・周辺マップ	6
5. 事前参加登録・ランチョンセミナー(LS)のご案内	7
6. ワークショップ(WS)事前参加申込のご案内	9
7. ワークショップ(WS)一覧	11
8. 一般演題募集のご案内	27
9. パネル展示募集のご案内	29
10. 患者家族の会・支援者の会展示募集のご案内	30
11. メディカルスタッフミーティングのご案内	31
12. 講習会のご案内	32
13. 特別講演のご案内	33
14. 教育講演のご案内	34
15. 招待講演のご案内	36
16. シンポジウムのご案内	37
17. セミナーのご案内	40
18. 小児 AMR セミナーのご案内	41
19. スペシャル・インタレスト・グループ(SIG)のご案内	42
20. 前夜セミナーのご案内	43
21. スポンサーシップシンポジウム・ハンズオンセミナーのご案内	44
22. 情報交換会のご案内	46
23. 託児室のご案内	47
24. 宿泊のご案内	49
25. 日本外来小児科学会への入会手続き	50



1. 会頭挨拶

第 28 回日本外来小児科学会年次集会 の開催にあたり



第 28 回日本外来小児科学会年次集会
会頭 黒木 春郎
(医療法人社団嗣業の会 外房こどもクリニック)

第 28 回日本外来小児科学会年次集会を、2018 年 8 月 24 日（金）～ 26 日（日）の 3 日間にわたり東京国際フォーラムで開催いたします。

第 28 回年次集会ではコンセプトを＜総合の知＞と＜現場からの情報発信＞としました。私たちは現場の医療を担う立場として、日本の地域医療の現状、その課題を日々感得しています。俯瞰的視点では具体的な個々の事象を知ることとはできません。現場からの情報発信が重要な所以です。一方、現場の具体的事象のみ掌握するだけでは医療の大枠や方向性を見失ってしまう可能性があります。俯瞰的視点は制度理念の構築へと繋がります。医療現場で起きる具体的事象の掌握と俯瞰的視点、この双方が有効に機能することが、地域医療の向上を促進します。現場実践と制度理念の交差する光芒に私たちの目指すべき未来があります。

また、小児医療は本来、全人的な「小児」を対象としています。そのため多職種の領域横断的な共同作業が必要です。医療とは本来そうした構造を有するものであり、特に研究活動の上でそのような視点や交流が多くあるのが当学会の特徴です。今回の年次集会では、日本の医療全体を見通す講演、地域での小児医療・福祉行政の実践、最新の IT 技術が地域医療にもたらすオンライン診療（遠隔診療）、大きな問題となっている医療者への暴言・暴力の問題、小児科専攻医のための研修など、多彩な企画を準備しています。開業医のみならず、勤務医、研修医の皆様が参加されても充実した時間が過ごせます。スタッフ向けにスキンケア、ワクチンの課題なども企画しています。

多くの皆様のご参集を期待しております。

2. 年次集会概要

テ ー マ <総合の知>を求めて～現場からの情報発信～

会 期 2018年8月24日(金)～26日(日)

会 場 東京国際フォーラム 東京都千代田区丸の内3-5-1

会 頭 黒木 春郎(医療法人社団嗣業の会 外房こどもクリニック)

実行委員長 涌水 理恵(筑波大学 医学医療系 小児保健看護学)

事務局 長 齊藤 匡 (国保多古中央病院 小児科)

公式ウェブサイト <http://web.apollon.nta.co.jp/sagpj28/>

服装規定 カジュアル(ネクタイ、ジャケット不要)

*がついているプログラムは事前申込が必要です

前夜セミナー	8月24日(金) 19:00～20:00	学会参加登録不要・無料
開会式	8月25日(土) 8:30～8:45	ホールD1
全体集会	8月25日(土) 13:15～14:00	ホールB7
情報交換会・式典	8月25日(土) 17:30～19:00	ホールE
ワークショップ*	8月25日(土) 9:00 / 14:15 26日(日) 9:00	各会場 各会場
一般演題 口演	8月25日(土) 9:20 / 14:15 26日(日) 9:20	G502・G510 G502・G510
ポスター&企業展示	8月25日(土) 9:00～26日(日) 13:30	ホールE
ランチョンセミナー*	8月25日(土)26日(日) 12:10～13:00	各会場
ハンズオンセミナー*	8月25日(土) 14:15～16:45	ホールB5
スタッフミーティング*	8月26日(日) 9:00～11:30	ホールD7
虐待講習会BEAMS*	8月26日(日) 10:45～11:45	G701
小児AMRセミナー*	8月26日(日) 9:30～15:30	G402

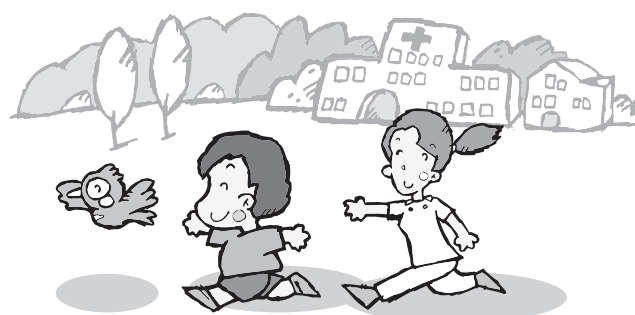
SIG	8月25日(土) 9:00 / 10:30 / 14:15 / 15:40 26日(日) 13:15	G409 G409
拡大SIG	8月25日(土) 14:30 ~ 16:30	G402・G610
特別講演	8月25日(土) 14:15 / 16:00 26日(日) 9:00 / 10:45	ホールB7 ホールB7
招待講演	8月25日(土) 10:50 26日(日) 13:15	ホールD1 ホールB5
パネル展示&情報発信	年次集会期間中	G607
託児サービス*	8月25日(土)26日(日)	
閉会式	8月26日(日) 15:15 ~ 15:30	ホールB7

*** 事前申込の方法と受付期間**

すべて下記の第28回年次集会公式ウェブサイトからお願いします。定員に達した場合には受付期間中であっても受付を終了いたしますのでご了承ください。

第28回年次集会公式ウェブサイト <http://web.apollon.nta.co.jp/sagpj28>

対象プログラム	事前参加申込の受付期間
ワークショップ	4月15日(日) ~ 5月25日(金)
ハンズオンセミナー	4月16日(月) ~ 5月25日(金)
スタッフミーティング	4月16日(月) ~ 5月25日(金)
虐待講習会 BEAMS	4月16日(月) ~ 5月25日(金)
ランチョンセミナー	7月中旬~開始予定
小児 AMR セミナー	4月16日(月) ~ 7月 6日(金)
託児サービス	2月 2日(金) ~ 8月10日(金) 17:00



3. タイムスケジュール

8月24日(金)

会場名	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
ガラス棟 G407								役員会		新役員会	
ガラス棟 G409										総会 (代議員会)	
ガラス棟 G502										前夜セミナー1 労務管理	P43
ガラス棟 G510										前夜セミナー2 子ども虐待対応	P43

8月25日(土)

会場名	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
ホール B7		講演と対談 こどもの生活、 こどもの世界 P37		教育講演 児童発達支援 P34			全体集会 会頭講演	特別講演 逃げ切れ!日本の医療 共催:マルホ P33	特別講演 小児科プライマリ ケアの課題と将来 P33			
ホール B5			スポンサードシンポジウム1 共催:サノファイ P44					ハンズオンセミナー 共催:マルホ (要事前申込) P45				
ホール D7			シンポジウム 軽度外傷の初期診療 P37					教育講演 小児歯科 P34	教育講演 子どものくつ P35			
ホール D5		シンポジウム 一歩進んだ発達障害診療 P37		教育講演 川崎病の 新しい話題 P34				シンポジウム 感染症 up to date P37	医療倫理講習会 小児医療従事者の ための研究倫理 P32			
ホール D1	開 会 式	教育講演 病気の子ども の気持ちを支える P34		招待講演 グリーフケア P36				教育講演 子どもの眠り P34	教育講演 ネット・スマホ 依存 P35			
ガラス棟 G402			WS25-1 P12					拡大 SIG-2 有志医師による Web プロジェクト P42				
ガラス棟 G404			WS25-2 P12					WS25-10 P16				
ガラス棟 G405			WS25-3 P13					WS25-11 P17				
ガラス棟 G407			WS25-4 P13					WS25-12 P17				
ガラス棟 G408			WS25-5 P14					WS25-13 P18				
ガラス棟 G409		SIG1 帰してはいけない 外来患者 P42		SIG2 Happy こどもの みかた P42				SIG3 保育園との対応 P42	SIG4 薬剤師と AMR P42			
ガラス棟 G410			WS25-6 P14					WS25-14 P18				
ガラス棟 G502			一般演題					一般演題				
ガラス棟 G505			WS25-7 (会頭指定) P15					WS25-15 P19				
ガラス棟 G507								質的研究 セミナー P40				
ガラス棟 G508			WS25-8 P15					WS25-16 P19				
ガラス棟 G510			一般演題					一般演題				
ガラス棟 G602				外来小児 看護セミナー P40				若手医師・研修医支援委員会主催 こどもどこセミナー P40				
ガラス棟 G605			WS25-9 P16					WS25-17 P20				
ガラス棟 G610			臨床統計セミナー P40					拡大 SIG-1 産後ケア P42				
ガラス棟 G701				スポンサード シンポジウム2 共催:ツムラ P44				スポンサード シンポジウム3 共催:バイオガイア社 P44				
ホール E											情報交換会 歓迎式典 松山バレエ団 P46	

8月26日(日)

会場名	8:00 30	9:00 30	10:00 30	11:00 30	12:00 30	13:00 30	14:00 30	15:00 30	16:00 30	17:00
ホール B7	P33 特別講演 子育てロックンロール 男性不妊を乗り越えて			特別講演 子育て包括支援 ネウボラ	P33		シンポジウム オンライン診療 P39	閉 会 式		
ホール B5			シンポジウム 食物アレルギー P38				招待講演 医療への暴言・暴力 P36			
ホール D7			スタッフミーティング P31				スタッフ向け セミナー P40			
ホール D5			教育講演 小児の画像診断 P35				シンポジウム 病児保育入門 P39			
ホール D1	P38 シンポジウム 希少遺伝性 疾患の早期発見			大阪小児科学会 小児在宅医療 セミナー	P40		医療安全講習会 P32			
ガラス棟 G402			小児 AMR セミナー 共催：小児感染症学会 P41							
ガラス棟 G404			WS26-1 P21							
ガラス棟 G405			WS26-2 P21							
ガラス棟 G407			WS26-3 P22							
ガラス棟 G408			WS26-4 P22							
ガラス棟 G409			園学校保健委員会主催 園学校保健シンポジウム P38				SIG 5 ここだけの症例 P42			
ガラス棟 G410			WS26-5 P23							
ガラス棟 G502			一般演題				一般演題 (予備)			
ガラス棟 G504			WS26-6 P23							
ガラス棟 G505			WS26-7 P24							
ガラス棟 G507			WS26-8 P24							
ガラス棟 G508			WS26-9 P25							
ガラス棟 G510			一般演題				一般演題 (予備)			
ガラス棟 G602			WS26-10 (会頭指定) P25							
ガラス棟 G605			WS26-11 P26							
ガラス棟 G610			WS26-12 P26							
ガラス棟 G701	P45 スポンサー シンポジウム 4 共催：森下仁丹			講習会 BEAMS P32						
ホール E			ポスター展示・企業展示							

5. 事前参加登録・ランチョンセミナー (LS) ご案内

事前参加登録期間

申込日：2018年4月16日(月)～7月6日(金)

■年次集会参加費

参加区分	事前登録	当日登録
医師・一般	16,000 円	18,000 円
メディカルスタッフ	10,000 円	12,000 円
初期・後期研修医	5,000 円	6,000 円
学生（大学生・大学院生・専門学校生）	2,000 円	2,000 円

◎ 上記参加費には学会誌抄録号は含まれません。

◎ 学会会員の方には登録された施設または住所に学会誌抄録号(第2号)が送付されます。当日忘れずにお持ちください。

◎ 学会誌抄録号が別途必要な場合、及び当日お忘れの場合は、総合受付にて1冊2,000円で販売いたします。

◎ 当日、会場にて「ポケットプログラム」を配布いたします。(無料。数量限定あり。)

◎ 「学生」の方は、総合受付にて学生証を提示してください。提示のない場合は「医師・一般」の区分になります。

看護学生であっても、医療機関で勤務しているスタッフは「メディカルスタッフ」の区分になります。

◎ 事前参加登録締切後は、当日登録のみとさせていただきますのでご了承ください。

◎ 今回の外来小児科学会では「小児科に関わる職種のうち、医師以外のスタッフ」をメディカルスタッフと表現しています。

【専門医制度認定単位について】

日本小児科学会専門医認定研修会として1単位(新制度)

日本小児科医会地域総合小児医療認定医制度研修会として、新規10単位・更新5単位

日本小児神経学会小児神経専門医制度認定研修会として2単位が認められます。

【申込み方法】

第28回日本外来小児科学会年次集会HP (<http://web.apollon.nta.co.jp/sagpj28/>) よりお申し込みください。

1) 事前参加登録は、「新規利用登録」が必要です。まず、「代表者個人情報登録」画面へ進み個人情報をご入力後、「参加登録」へお進みください。

2) 参加登録が完了すると、ご登録いただいたメールアドレスあてに確認メールが自動返信されます。(確認メールが届かない場合はアドレスの入力間違い等が考えられます。

事前参加登録申込担当までお問い合わせください。)

【ランチョンセミナー (LS) について】

LSは事前申込を行う予定です。詳細は後日、年次集会ホームページに掲載いたします。

【昼食について】

LSにお申し込みいただいた方にはお弁当を用意しております。

飲食物のお持ち込みはご遠慮ください。

【お支払方法について】

お支払締切日：2018年7月9日（月）までにお支払ください。

1) 確認メールや請求書が届きましたら、予約内容、請求金額をご確認の上、期日までにお支払ください。ご登録後2週間以内にお支払くださるようにおすすめいたします。期限までにお支払いが確認できない場合、全ての事前登録は無効となりますのでくれぐれもご注意ください。

※7月9日（月）までであれば、変更や取消に伴う返金が可能です。

2) お支払方法は、「クレジットカード」または「コンビニ決済」「銀行振込み」にてお願いいたします。ご希望のお支払方法をお申し込み時にご選択ください。

※コンビニ決済の場合、手数料はお申込者様のご負担にてお願いいたします。

【変更・取消について】

変更及び取消のご連絡は、行き違いをさけるため、E-mail など書面にてお願いいたします。

なお、お電話での受付は致しかねますので、何卒ご了承ください。

手配並びに準備の都合上、取消に伴う参加登録費のご返金は、7月7日を過ぎた場合は一切できませんのでご了承ください。

【年次集会事前参加登録の当日までの流れについて】

開催前に参加証、LS 整理券等をお送りいたします。（8月上旬頃発送予定）

学会誌抄録号は会員の方のみ、送付されます。

学会員以外の方で学会誌抄録号をご希望の方は、事前参加登録の際に一緒にお申し込みください（1冊2000円）。

入金済にも関わらず8月20日（月）を過ぎても学会誌抄録号が届かない場合は、下記までお問い合わせください。当日はお送りした参加証等を必ずお持ちください。お忘れになった場合は総合受付にお問い合わせください。

【参加証着用をお願い】

ネームホルダーは当日受付にご用意しております。学会参加中は、首から下げてご参加ください。

■お申込み及びお問い合わせ

『第28回日本外来小児科学会年次集会』

事前参加登録受付

（株）日本旅行 ECP 営業部内 MCS センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19

虎ノ門マリビル 11F

email : mcs_inq04@nta.co.jp

営業時間：平日9:30～17:30（土日祝休）

6. ワークショップ (WS) 事前参加申込のご案内

WS 事前参加申込の受付期間

2018年4月15日(日)10:00～5月25日(金)

(第28回年次集会公式ウェブサイトからのお申し込みのみとさせていただきます)

今年の年次集会 WS は、8 月 25 日 (土) 9:00 ～ 11:30 (会頭指定 WS は 11:50)、14:15 ～ 16:45 および 26 日 (日) 9:00 ～ 11:30 (会頭指定 WS は 11:50) の 3 つの時間帯に開催いたします。各 WS のご案内は 11 ページ以降に掲載してあります。参加条件などにご注意いただき、第 28 回年次集会公式ウェブサイトから WS 事前参加申込をお願いします。**同じ時間帯の WS に同時に複数お申し込みをすることはできません。**WS に参加する場合、原則として途中退室はできませんのでお気をつけください。定員を超えるお申し込みがあった場合は、WS 主催者(リーダー)が参加の可否を決定しますのであらかじめ御了承ください。定員に満たなかった WS は、当日参加が可能となる場合があります。当日参加が可能となった WS につきましては開催当日の 8:30 から総合受付に掲示して受付いたします (先着順)。

■ WS 事前参加申込の方法

* お申し込みの後に必ず「年次集会の事前参加登録」をお済ませください。

1. 第 28 回年次集会公式ウェブサイトアクセスしてください。
<http://web.apollon.nta.co.jp/sagpj28/>
2. トップページ左にあるメニューから「WS 参加申込」をクリックしてください。
3. 参加申込手順をお読みいただき、連絡先のメールアドレスを登録してください。
4. ご登録予定のメールアドレスから ws-sankakibou@future.or.tv に空メール (タイトルや内容は不要) を送信してください。5 分ほどで返信メールが届きます。
5. 返信メール内に記載されている「リンク先」を開いてお申し込みください。
6. お申し込みは携帯電話のアドレスも使用可能です。
7. 詳しい申込方法は、公式ウェブサイトの WS 参加申込メニューにある参加申込手順をご参照ください。

なお、年次集会公式ウェブサイトから、WS の申込状況をあらかじめご確認できますのでご参考にしてください。

■ 参加申込 WS の決定と通知

WS 参加の可否は第 28 回日本外来小児科学会事務局から連絡いたします。6 月 1 日 (金) になっても大会事務局から連絡がない場合は、WS 担当の前原 (CZL05440@nifty.com) までご連絡をお願いいたします。

* 事務局からの連絡は ws-office@future.or.tv から送信いたします。このアドレスからのメールを着信拒否しないようにご注意ください。

■ WS のご案内

1. WS 番号

WS 25 ; 25 日 (土) の WS を表します。

WS 26 ; 26 日 (日) の WS を表します。

2. 進め方

研修型 ; 講義や発表の内容を確認しながら討論し、学習内容をまとめて成果とします。

問題解決型 ; 提示されたテーマについて解決策を自由に討論し、その結果を成果とします。

3. 定員

最大参加人数を示しています。一部の WS では同一施設からの申込人数に制限があります。

4. 参加費

有料の WS に参加される方は、参加費を当日 WS リーダーにお支払いください。会計処理はすべて各 WS の責任でお願いいたします。WS リーダーはあらかじめ参加者に対して費用の内訳を提示してください。

5. 当日参加の可否

当日参加「不可」；事前申込で参加があらかじめ決定した方だけが参加できます。

当日参加「可」；事前申込で定員に達している場合は当日参加ができないことがあります。あらかじめ事前登録することとお勧めします。

6. 対象

討論するテーマの関係で、参加者の職種に制限を設けている WS がありますのでお申し込みの際にご注意ください。

7. WS 委員会アンケートへのご協力のお願い

WS 終了後、すべての参加者、WS のリーダー、サブリーダーを対象にアンケートを実施いたします。

提出方法；原則として WS 終了後に各会場に設置した回収箱にお入れください。

やむを得ず提出できなかった方は、後日、WS 委員会の齊藤まで FAX または郵送にてお送りください。年次集会 WS の質の向上のため、是非ご協力ください。

アンケート送付先；多古中央病院小児科 齊藤 匡 FAX；0479-76-3286

郵送先；〒 289-2241 千葉県香取郡多古町多古 388-1 多古中央病院 齊藤 匡

8. WS に関するお問い合わせは [E-mail ; takosaito2010@gmail.com](mailto:takosaito2010@gmail.com) へお願いいたします。

年次集会 WS 担当：齊藤 匡・前原 幸治

7. ワークショップ (WS) 一覧

8月25日(土)

*会頭指定

WS 番号	テーマ	リーダー名	定員
WS25-1	「子どもの心のサインを読みとる…ロバートソンフィルムを教材にして…」その3	松原 徹	40
WS25-2	一般小児科医に求められる不登校への初期対応～小さな頃から見ているからこそできる支援を考える	平尾 恵子	30
WS25-3	服薬指導への取り組みその17「変わりつつある子どもの薬の使い方と服薬指導での工夫」	高橋 肇	40
WS25-4	あなたも「命の授業」(PUSH 講座)を開いてみませんか?～園や学校で、職場や地域で～	藤川 順子	40
WS25-5	小児救急電話相談から学ぶクリニックの電話対応	福井 聖子	30
WS25-6	患者からのクレームに対する対応を学ぶ	青山 祐子	20
WS25-7 *	気付きと振り返りの自己学習プログラムを一緒に作ろう	松下 享	30
WS25-8	乳児からの離乳食で食物アレルギーを防ぐ試み	西村 龍夫	20
WS25-9	「あれ?これ漏れているよ」を減らそう～ワクチン接種漏れを減らす工夫～	斧田 順子	30
WS25-10	スタッフを輝かせるために～リーダーが考える人財育成術～(その1)	田草 雄一	30
WS25-11	外来での事故防止を進めよう～事故防止対策の企画・運営を学んでみませんか～	及川 郁子	40
WS25-12	小児科外来での禁煙支援をどうするか?～電子タバコ・加熱式タバコの出現を受けて～	野田 隆	30
WS25-13	前向き子育て十か条を活用しよう	藤田 一郎	30
WS25-14	みんなが笑顔になれる母乳育児支援①～多職種で支援する小児科外来に～	江田 明日香	30
WS25-15	伝えるってむずかしい?!～相手の心に届く伝え方、一緒に考えましょう～	野村 さちい	20
WS25-16	定期予防接種の適正な委託料金を考える	藤岡 雅司	30
WS25-17	ビタミンD欠乏とその対応:なぜ今問題になっているのか、われわれはどうすべきか?	伊藤 純子	30

8月26日(日)

WS 番号	テーマ	リーダー名	定員
WS26-1	医療安全からみた予防接種の間違い防止策	崎山 弘	30
WS26-2	優しさ、真心、熱意で虐待は随分予防できる＝問主観的(心の響き合い)親支援による虐待予防＝	澤田 敬	40
WS26-3	親と子への服薬支援～くすり嫌いを解決するために その3～	上荷 裕広	40
WS26-4	ワクチンに関する誤解 ～私たちにできることを考えよう～	藤岡 雅司	30
WS26-5	みんなが笑顔になれる母乳育児支援②～小児科医としての関わり～	瀬川 雅史	30
WS26-6	地域医療の中での小児科医の役割 一少子高齢化社会の中で～	松浦 伸郎	30
WS26-7	始めてみよう、小児漢方～漢方を用いた家族へのアプローチ～	森 蘭子	20
WS26-8	ワクチン誤接種防止に向けてパソコンで「注意喚起ツール」を作ろう・使ってみよう	卯月 勝弥	20
WS26-9	離乳食を科学的に語ろうⅡ	岡田 清春	30
WS26-10 *	小児救急初療コース(Triage & Action コース:小児 T&A コース)	茂木 恒俊	30
WS26-11	小児科外来における渡航ワクチンの基礎と実践	岡藤 隆夫	20
WS26-12	子どもの貧困に気づき支援するために part3	和田 浩	40

WS25-1		「子どもの心のサインを読みとる… ロバートソンフィルムを教材にして…」その3
(リーダー)	松原 徹	(城東こどもクリニック：医)
(サブリーダー)	澤田 敬	(NPO 法人 カンガルーの会：医)
	新津 直樹	(新津小児科：医)
	藤田 一郎	(福岡女学院大学人間関係学部こども発達学科：医)
ロバートソンフィルムとは愛着理論を確立したボウルビィの弟子であるロバートソン夫妻によって1950年代にイギリスで撮影された子どもの発達心理行動の研究のためのフィルムです。そこには2歳前後の子ども達が母親と分離され「自分に何が起きているのか分からない」戸惑いと不安が克明に記録されています。 これまでこのWSでは「JOHN」と「Lucy」を視聴してきました。参加者からは子どもの心の変化やそのサインが沢山あることが分かったという感想が多く寄せられました。今回は「Jane」を視聴します。Janeは17ヶ月の女兒。Lucyと同じように里親の下で手厚いケアを受けて過ごします。母親と分離された最初の頃、Janeは里親に笑顔を振りまきます。その笑顔にはどんな意味があるのでしょうか。また母親と再会したときに彼女が見せる態度の意味は？ これまでと同様、まず最初にフィルムを視聴し、その後幾つかのグループに分かれ、子ども達の仕草や表情から参加者それぞれが読み取った子ども達の心理状態や感じたことを話し合います。そして愛着にまつわる病理を理解し、日常の診療や保育、育児支援に大切な心のサインを一緒に再確認しましょう。		
WSのタイプ		研修型
定員		40名
1施設からの定員		2名まで
当日参加		可
参加費		無料
		対象
		制限なし

WS25-2		一般小児科医に求められる不登校への初期対応 ～小さな頃から見ているからこそできる支援を考える
(リーダー)	平尾 恵子	(あきつこどもクリニック：医)
(サブリーダー)	鷺澤 一彦	(わしざわ小児科：医)
近年、不登校やひきこもりが注目されている。行政、学校関係者を中心に対策が模索されているが、不登校の要因は多岐にわたり、明らかな原因を見出すことの難しい例が多数を占めるとも言われている。小児科の分野では、主に発達障害や児童精神を専門とする医師が関わっているのが現状だが、学校への行き渋りや不登校初期には、小さい頃からなじみのあるかかりつけ医に様々な不定愁訴とともに相談されるケースが多い。 確立された解決への道筋がなく、具体的な対応方法に関しても情報が錯綜する中、限られた時間の中でかかりつけ医としてどのような対応を行うべきなのかわからず、支援したい気持ちが生かされていないと感じる場面にしばしば遭遇する。今回のワークショップは、発達障害や児童精神を専門としていないあくまでも一般小児科医が、初期にどのような態度で対応するべきか、どのような点に留意しながら支援につなげていくのが望ましいのかといったヒントを得ることを目的とする。長年不登校問題に取り組んでいる講師をアドバイザーとして招き、ロールプレイを通して、限られた時間の中で実際にどのような声かけや質問をするのが望ましいアプローチなのか学びあう機会としたい。		
WSのタイプ		研修型
定員		30名
1施設からの定員		原則1名
当日参加		不可
参加費		500円
		対象
		制限なし

WS25-3		服薬指導への取り組みその17 「変わりつつある子どもの薬の使い方と服薬指導での工夫」
(リーダー)	高橋 肇	(はじめこどもクリニック：医)
(サブリーダー)	高島 望	(のの薬局：薬)
子どもの服薬指導をテーマに今回は「変わりつつある子どもの薬の使い方」を取り上げることにしました。7年前のWSでは、子どもの薬を見直してみようをテーマに「乳幼児の抗ヒスタミン薬の使い方」を取り上げました。最近では小児科領域でもさまざまな臨床データや（診療）ガイドラインが入手可能になり、今まで経験的に行われてきた子どもの薬物療法でも、効果や副作用のエビデンスが次第に明らかになってきました。エビデンスが明らかになればなるほど、今までの治療で良いのか、どこを変えていけばよいのか悩むことが多くなりました。 今回は、医療機関では最近見直した処方内容（調剤薬局では応需する処方箋の変化）や皆さんが処方に対して疑問に思っていることなどの事前アンケートを行い、子どもの咳の薬やおなかの薬の使い方などについて情報交換ができればと考えています。また、今までは薬剤情報も製薬メーカーのMRから効果や副作用の説明（主に新発売の薬だけ）を受けることが多くありました。このようなバイアスの入っているかもしれない情報だけでなく、視点を変えて服薬指導WSで取り組んできた子ども一人一人に合わせた飲みやすさあるいは飲みませやすさ、薬の作用機序、効果の強さや速さ、副作用などを同種同効果との客観的な比較検討のプロセスに取り入れていけたらと考えています。		
WSのタイプ	問題解決型	対象
定員	40名	制限なし
1施設からの定員	2名まで	
当日参加	可	
参加費	無料	

WS25-4		あなたも「命の授業」(PUSH 講座)を開いてみませんか？ ～ 園や学校で、職場や地域で ～
(リーダー)	藤川 順子	(医療法人 ふじかわ小児科：看)
(サブリーダー)	古家 信介	(大阪市立総合医療センター：医)
PUSH講座とは、胸骨圧迫だけの「誰でもできる心肺蘇生」とAEDの使い方を、効率よく楽しく学べる講座です。アニメDVDを見ながらの短時間(45分程度)の講座で、小学生から高齢者、障害を持つ方々までも命を救うすべを習得できるシステムです。今回のWSでは、まず実際にPUSH講座を受講体験(45分)してもらいます。そしてWSの後半では、参加者自身が職場や地域や学校でPUSH講座を開けるように、講座の開き方、ノウハウを講義または実習形式で楽しく学んでいただきます。 今、日本では年間約7万人という方が心臓突然死で亡くなっています。交通事故による死亡の約18倍です。また学校管理下における突然死の現状をみると、平成11年度から20年度までは年間35～83件発生の突然死のうちおよそ71%が心臓系疾患で占められています。このように心臓突然死はいつでも どこでも だれにでも身近なところで起こります。 目の前で突然人が倒れたら…、心臓が止まってしまったら… 一刻も早く胸骨圧迫を開始し、AEDで電気ショックをかける必要があります。AEDの設置は拡大していますが、それを使って心肺蘇生のできる人を増やし、救命できる地域づくりをする必要があります。また、大規模災害時にも、子供達の協力は欠かせません。子供の時期から繰り返し救命法を学ぶことで、成長して社会に出てからも役立つ有用なスキルとして定着させることができます。さらに、それは子供達の自己有用感の醸成にも役立ちます。 このWSに参加された方が、園や学校であるいは職場や地域でPUSH講座をすることは、心肺蘇生の体系的な普及につながるだけでなく児童、生徒達に「いのちを大切にすること」や互助の精神の重要性を感じてもらい貴重な機会となるでしょう。PUSH講座の教育効果は、ランダム化比較試験という方法で検証され、確立されたエビデンスに基づいた教育コースです。		
WSのタイプ	研修型	対象
定員	40名	制限なし
1施設からの定員	2名まで	
当日参加	不可	
参加費	無料	

8月25日(土) 9:00～11:30

ガラス棟 G408

WS25-5		小児救急電話相談から学ぶクリニックの電話対応
(リーダー)	福井 聖子	(NPO 法人小児救急医療サポートネットワーク：医)
(サブリーダー)	田原 卓浩	(たはらクリニック：医)
	阿部 榮子	(NPO 法人小児救急医療サポートネットワーク：看)
クリニックへの電話は、単なる問い合わせや受診の相談などさまざまで、受診患者の保護者といっても、声だけの対応に戸惑うことはよくあります。電話を介する会話が診療現場の会話と異なる配慮を必要とすることは、案外意識されていません。保護者の立場に立って話をよく「聴く」こと、電話での指導は限定的と理解すること、クリニックの方針を整理して共有することが良い電話対応につながります。対応がスムーズになるとクリニックのイメージアップにもなり、聴き取った内容は保護者への指導の一環として重要な役割を果たすなど、日常診療に良い影響を及ぼします。 WS では、最初に電話の会話の特徴を学び、グループワーク前半は保護者の立場で電話の会話を考えます。次に電話の録音を聞いて、保護者の電話の目的が受診希望か相談か聞き分ける練習を行います。さらにクリニックの電話でよく話題に上がる「電話で済ませようとする保護者」について話し合います。電話は一方的な指導を伝えるのではなく「聴く」手段として有効で、保護者支援に役立ちます。 また、電話でどう応えたらよいか戸惑うことの中には、クリニックでの方針が曖昧なこともあります。電話で受付事務職が答えられることと、看護師や医師が対応することをあらかじめ話し合っておくようポイントを説明しています。 過去の WS 参加者からは「電話に対する見方が変わった」「苦手意識が減った」「受付の電話対応の方法を話し合っ て決めた」「電話でよく問い合わせのある内容は、説明の書式を作った」など好評でした。単なる接遇ではなく、発想の転換を目指す研修を是非ご体験ください。		
WSのタイプ	研修型	対象
定員	30 名	制限なし
1 施設からの定員	3 名	
当日参加	可	
参加費	1200 円	

8月25日(土) 9:00～11:30

ガラス棟 G410

WS25-6		患者からのクレームに対する対応を学ぶ
(リーダー)	青山 祐子	(川井小児科クリニック：事)
(サブリーダー)	榎並 桂子	(松川クリニック：事)
	鶴田 恵子	(川井小児科クリニック：看)
	村田 正恵	(つつじが丘こどもクリニック：看)
私たち医療従事者は保護者から信頼されるクリニックを目指しています。しかし、患者から時に思わぬクレームを受ける事があります。正当なクレームで当方が反省すべき場合もありますが、理不尽なクレームもあると思います。クレームの対応がよければ信頼を得ますが、とっさのクレームにあわてて間違った対応や、その場しのぎの対応をすると益々クレームは増幅します。患者からのクレームにどのように対応したら良いか日頃から学んでおく必要があります。 「待ち時間が長い」「診察の順が前後した」「薬が間違っていた」「受付の対応が悪い」などなど皆さんのクリニックで実際経験したクレーム事例や、今後あり得る事例を報告していただき、ロールプレイ形式で、それぞれのクレームの背景を理解しどのように対応したら良いか考えます。 今後患者からのクレームに対し苦手意識を持たず、正しい対応の仕方を学びましょう。		
WSのタイプ	問題解決型と研修型の混合型	対象
定員	20 名	事務、看護師
1 施設からの定員	1 名まで	
当日参加	不可	
参加費	500 円	

WS25-7		気付きと振り返りの自己学習プログラムを一緒に作ろう	
(リーダー)	松下 享	(松下こどもクリニック：医)	会頭指定
(サブリーダー)	森田 潤	(こどもクリニックもりた：医)	
	谷村 聡	(たにむら小児科：医)	生涯学習委員会主催
	田中 秀朋	(あかちゃんとこどものクリニック：医)	
生涯学習委員会は、会員の生涯学習を支援する活動として毎年 2回の生涯学習セミナーを開催してきました。更なる会員の自己学習を促すため、2017年に「自己学習プログラム検討会」を発足させました。本検討会では、日常の外来診療に関わる 3つの事柄(知識、技能、態度)についての設問と解説文を作成し、会員がこれらの設問に答えて解説文を参照することによって、気付きと振り返りによる自己学習を促し、自らの診療の質を向上させることができるようなシステムの構築を目指しています。これは本学会の目的に沿うものであり、成人学習理論(自律的な学習を好む、自ら学習計画を立案し評価することを望む、実地問題中心のアプローチに興味を示す、経験が学習活動の資源となる)を応用した教育法でもあります。本システムでは、「自分に足りないこと」「他のやり方や他の考え方があること」に気づき、自らの診療を振り返り、結果として自己学習と行動変容を促すことを目的としていることから、設問は唯一の正解を求めるものではなく、また知識よりも実地課題を問うものを主とします。また参加者には他の会員の回答状況を知ることができるようにし、自己の診療姿勢の立ち位置をチェックすることにも利用できます。検討会では、上記システムをソフト面にハード面を併せて構築しているところですが、「会員が互いに教えあう」ことを基本スタンスとしたいとも考えています。WSでは、本趣旨に賛同する方より良いシステムについて意見交換を行いつつ、一緒に設問と解説文を作成して本プロジェクトにご参加いただきたいと思います。			
WSのタイプ		問題解決型	対象
定員		30 名	医師
1 施設からの定員		制限なし	
当日参加		不可	
参加費		無料	

WS25-8		乳児からの離乳食で食物アレルギーを防ぐ試み	
(リーダー)	西村 龍夫	(にしむら小児科：医)	
(サブリーダー)	福岡 圭介	(福岡小児科アレルギー科：医)	
	深澤 満	(ふかざわ小児科：医)	
わが国の食物アレルギーの有症率は近年上昇傾向にあり、乳児で約 5 ～ 10%，3 歳までに食物アレルギー症状を認めたと児は 20%，医師の診断があった児は 16.5%，何らかの食物を除去している児は 9.7%にものぼる。原因食物の頻度は年齢により異なるが、乳幼児期には鶏卵、牛乳、小麦がほとんどを占める。WS リーダーの西村を含む大阪小児科医会のグループが 2014 年に調査したデータでは、1 歳児の約 4 人に 1 人が何らかの形で食物制限を行っていた。近年、食物アレルギーは皮膚から食物抗原が入ってくることにより発症すると考えられるようになったが、逆にアレルギーとなる食物を食べることで発症が抑制されることも分かってきた。しかし、どのような食物を、いつから、どの程度の量を食べさせるのが最適なのかについては、未だ明確な指針がないのが現状である。 プライマリ・ケアの場において、乳児期の離乳食指導が行われることは多いと思われる。そこで、適切にアレルゲンを含む食事を食べさせることで、リスクを回避しながら食物アレルギー児を減らすことを考えなくてはならない。西村はサブリーダーの福岡、深澤と共同で共同研究者を募り、多種類の食物アレルゲンを早期から微量投与することで食物アレルギーを減らすことができるかの、多施設共同での臨床研究を進めている。今回、研究に参加しているメンバーや既に微量投与を行っている医師を中心とし、その他にも乳児期からのアレルゲン早期投与に興味がある医師に参加して頂き WS を行う予定である。 WS であるが、前半はこれまでアレルゲンの早期微量投与を行っている医師から、投与時の様子や副反応の有無、その後の食物アレルギー発症の有無についての現時点での経験をまとめてみる。後半では今後こういった取り組みをどのように一般に広げていくのか、その方法論を考えていくことにする。			
WSのタイプ		問題解決型	対象
定員		20 名	医師
1 施設からの定員		なし	
当日参加		不可	
参加費		無料	

8月25日(土) 9:00～11:30

ガラス棟 G605

WS25-9		「あれ？これ漏れているよ」を減らそう ～ワクチン接種漏れを減らす工夫～	
(リーダー)	斧田 順子	(福田診療所：助)	
(サブリーダー)	石井 美智代	(シロアムこどもクリニック：看)	
	渡辺 裕美	(シロアムこどもクリニック：看)	
	池田 美恵子	(シロアムこどもクリニック：看)	
	森田 弘子	(福田診療所：看))	
近頃は、ワクチンの種類が増え、特例措置もあって保護者も私達も、戸惑うことが多いです。そんな中、保護者自身が、接種スケジュールを立て、接種に来院することは大変なことです。私達も、確実にワクチン接種ができるように、個別スケジュールを作成したりとワクチン接種業務は複雑化しています。 でも、ワクチンは適切な時期に必要な回数、接種しなければ効果は得られません。確実な接種をと、母子手帳のダブルチェック、トリプルチェックを行っても、「あれ？これ漏れているよ」と接種漏れがあるのが現状です。 少しでも接種漏れを減らすために、皆さんの病院では、どんな工夫をしていますか？どんな工夫があると思いますか？ このワークショップでは、接種漏れを減らすための工夫をみんなで一緒に考えようと思います。最初にサンプルの母子手帳から接種漏れを皆さんで探してもらいます。次にどんな工夫をしているか、どんな工夫があるかを話し合います。最後に発表してもらいます。 小児科経験が浅い方、ワクチン接種業務が苦手な方、大歓迎します			
WSのタイプ		問題解決型	対象
定員		30 名	看護師
1 施設からの定員		2 名まで	
当日参加		不可	
参加費		500 円	

8月25日(土) 14:15～16:45

ガラス棟 G404

WS25-10		スタッフを輝かせるために ～リーダーが考える人財育成術～（その1）	
(リーダー)	田草 雄一	(ぼよぼよクリニック：医)	
(サブリーダー)	梶山 瑞隆	(梶山小児科・アレルギー科：医)	
	中野 景司	(ぐんぐんキッズクリニック：医)	
	松田 邦彦	(ぐんぐんキッズクリニック：事)	
【目的】患者さんへの安定した医療の提供のためには、クリニックが一つになることが必要であり、より質の高い医療の提供のためには、クリニックの成長が必要です。院長だけ、スタッフだけではそれは出来ません。しかしながら、「スタッフがすぐに辞める」「スタッフが言うことを聞かない」「あの院長は〇〇〇」という声をよく耳にします。なんとかしなきゃと思われてる院長、スタッフの皆さんに、少しでもヒントや気付きが生まれ、明日からのアクションにつなげていただけることが出来ればとこのWSを企画しました。 【対象】院長、院長の配偶者、スタッフのリーダーまたはリーダーを目指す方 (リーダーとはスタッフを業務面、メンタル面でけん引している方を指します。 役職名を指しているものではありません。) 【概要】座学スタイルの研修の後、参加者の方をグループ分けし各自の課題を話し合ってください、それぞれの課題解決のためのアクションプランを立て、発表していただきます。 具体的な内容は以下の通りです。 1. スライドに基づいた導入プレゼン（20分） 2. 実際にあった課題と具体例紹介（10分） 3. グループに分かれて、各グループでグループディスカッションを行っていただき、発表に向けてまとめていただく。（75分） 5. 休憩（5分） 6. 各グループから発表。その後総括（30分） 7. アンケートと集合写真撮影（10分） 以上です。今回第一回となりますが、多数のみなさんのご応募を心よりお待ちしております。			
WSのタイプ		研修型	対象
定員		30名	制限なし
1 施設からの定員		2名まで	
当日参加		可	
参加費		無料	

WS25-11		外来での事故防止を進めよう ～事故防止対策の企画・運営を学んでみませんか～
(リーダー)	及川 郁子	(東京家政大学：看)
(サブリーダー)	川口 千鶴	(順天堂大学保健看護学部：看)
「外来での事故防止を学ぼう」というテーマで、2年間外来で起こる事故予防について参加者と検討してきました。2017年からは、参加者がワークショップで学んだことを職場でリーダー的役割を取りながら、事故防止対策を具体的に実践できる企画や運営方法について学ぶワークショップを行っています。 方法としては、参加者の職場における事故防止対策や予防上の問題などについて事前調査を行います。当日は、事前調査を踏まえて事故防止対策の企画・運営方法の計画について話し合いを行います。また、これまで使用した教材なども紹介し、事故防止対策の方法を具体的にイメージできるようにします。教材の活用方法、実施時期、評価方法などを職場の現状に合わせて考え、事故防止対策の計画書を作成します。2017年の参加者の方からは実行したいという意見があり、実際、半数以上の方から企画・運営に結びついたというご連絡をいただきました。 今回も外来の事故防止対策をどのように計画したらよいか悩んでいる方、リーダーとなって進めたい方、是非ご参加ください。		
WSのタイプ	研修型	対象
定員	40名	メディカルスタッフ (医師以外)
1施設からの定員	原則1名	
当日参加	不可	
参加費	500円	

WS25-12		小児科外来での禁煙支援をどうするか？ ー電子タバコ・加熱式タバコの出現を受けてー
(リーダー)	野田 隆	(のだ小児科医院：医)
(サブリーダー)	高橋 裕子	(京都大学医学部健康情報学：医)
	牟田 広実	(いいづかこども診療所：医)
	伊藤 裕子	(伊藤内科医院：薬)
タバコ問題検討会では、子どもにタバコを吸わせない喫煙防止教育と子どもたちをタバコの害から守るために喫煙者への禁煙支援について情報提供を行ってきた。 近年、電子タバコや加熱タバコといった新型タバコが出現し、シェアを伸ばしていることから、それらの実態を明らかにし、小児科外来での禁煙支援の新しい姿を模索してみたい。 形式としては、最初に基礎知識を参加者全員で共有するためにレクチャーを行い、その後フリーディスカッションを行う。		
WSのタイプ	問題解決型と研修型の混合型	対象
定員	30名	制限なし
1施設からの定員	なし	
当日参加	可	
参加費	無料	

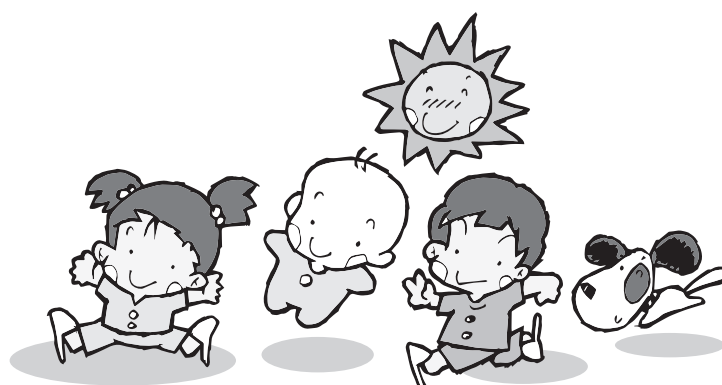
WS25-13		前向き子育て十か条を活用しよう	
(リーダー)	藤田 一郎	(福岡女学院大学人間関係学部子ども発達学科：医)	
(サブリーダー)	橋野 かの子	(橋野こどもクリニック：医)	
小児科外来では心身症や気になる子どもの行動で保護者から相談されることがあります。子育ての悩みについて話し合うことが役立つのですが、子育てに大切なことを伝える「前向き子育て十か条」を準備しておくで自信を持って対応できます。時間がなくても保護者に渡して簡潔にアドバイスできるかもしれません。好ましい子育て方法は親子の状況によって十人十色かと思いますが、多くの親が共感できる前向きな言葉を考えましょう。 昨年のワークショップでは、「前向き子育てプログラム・トリプルP」や「子育てハッピーアドバイス（明橋大二著）」、参加者の経験事例を参考にして、幼児、小学生、中学生向けの3グループに分かれて話し合い、3種類の前向き子育て十か条を考案しました。学会終了後、リーフレット形式にして参加者にメールで配布しました。 今回は、もう少し具体的な説明または事例を添えた十か条を作成することが目的です。参加者には事前に昨年作成した十か条をメールで配布します。話し合いの参考となるような修正意見、子育て相談に関する経験事例があれば事前に知らせてもらいます。ワークショップでは、前向き子育てプログラムの説明、参加者による子育て相談事例報告等を聴いて、3グループに分かれて前向き子育て十か条について話し合います。最後に全員で3つの十か条（修正版）の発表を聴いて意見交換を行い、より役に立ちそうなリーフレットを作成します。			
WSのタイプ		問題解決型	対象
定員		30名	制限なし
1施設からの定員		3名まで	
当日参加		不可	
参加費		無料	

WS25-14			みんなが笑顔になれる母乳育児支援① ～多職種で支援する小児科外来に～	
(リーダー)	江田 明日香	(かるがも藤沢クリニック：医)		
(サブリーダー)	古賀 浩子	(古賀小児科：助)		
	中川 志穂	(かるがも藤沢クリニック：助)		
	吉澤 志麻	(きくざとファミリークリニック：看)		
	三浦 久子	(緑の森こどもクリニック：助)		
	伊藤 敦美	(ひだまりクリニック：助)		
	梶本 宏枝	(かじもとこどもクリニック：助)		
	栗原 智郁枝	(かるがも藤沢クリニック：助)		
リーダー、サブリーダーはすべて IBCLC			(国際認定ラクテーション・コンサルタント)	
小児科外来では、「赤ちゃんの体重が増えない」、「母乳や人工乳が足りていないのかも」など、授乳に関する相談が多く見受けられます。より多くの母子が安全に長く母乳育児(混合栄養も含めて)を楽しむためには、かかりつけ小児科からの適切な支援がとても重要です。 このWSでは、小児科外来のスタッフ全員がそのような相談に対して自信をもって対応するための母乳育児支援を学びます。前半の座学では、最新の科学的根拠に基づいた母乳育児支援の基礎知識として、母乳育児のメリットや母乳分泌のメカニズム、母乳が足りているサイン、授乳中の食生活などについて学びます。続いて、母乳育児支援に必須であるカウンセリング・スキル、直接授乳の観察ポイント(適切な抱き方・吸わせ方)について、サブリーダーによるロールプレイを交えて学びます。 後半グループワークでは、前半で学んだ知識をもとに、母親役・支援者役によるロールプレイを行うためのシナリオを作成、グループごとに発表を行います。他グループのロールプレイを見ることで、様々な背景をもつ母子への具体的な支援方法を学びます。前年に引き続き参加される方々とは、各々が体験した現場での課題などを盛り込んだ、より実践的なシナリオ作成を行いたいと考えています。 同じ施設の小児科医師が「みんなが笑顔になれる母乳育児支援②～小児科医としての関わり～」に参加していただくことで、医師と他スタッフがよりスムーズに連携し効果的な母乳育児支援を行える一助となれば幸いです。また、参加される方には事前にテキストを郵送し、当日までに学びを深めていただきたいと思います。 お母さんと赤ちゃん、そして外来スタッフも、みんなが笑顔になれるよう、ともに学びましょう。				
WSのタイプ		問題解決型と研修型の混合型		対象
定員		30 名		メディカルスタッフ (医師以外)
1 施設からの定員		なし		
当日参加		不可		
参加費		500 円		

WS25-15		伝えるってむずかしい?! ～相手の心に届く伝え方、一緒に考えましょう～
(リーダー)	野村 さちい (亀美ヶ丘小児科：看)	
(サブリーダー)	阿真 京子 (一般社団法人知ろう小児医療守ろう子ども達の会：他)	
医療者と保護者は「子どもが健やかに育ってほしい」という共通の目標をもつ仲間です。そうした中で保護者に対して、「もっとこうしてくれていたら」、「こういうことを知っていたら」と思うことはないでしょうか？現代ではインターネットやアプリなどの充実により情報は簡単に手に入れることができます。しかしそうした情報に加えコミュニケーションを通した伝える機会がこのような時代には大切な時間となるのではないのでしょうか。保護者が安心して病気の子どもと家庭で過ごしていくために知っていてほしいこと、受診を選択するための見極め方、医療のかかり方など、クリニックは子どもの健やかな成長にむけた情報交換ができる絶好の場です。保護者の心に届くことは、小児医療の改善につながることでと思っています。 しかし、「伝える」ということは、「言った、話した」ではなく、「きちんと相手の心に伝わった」かどうか大切です。時には、伝えたい自分自身の思いが強いあまりいつしか「その人を説得しなくては」という気持ちに変化したり、気づかぬうちに自分の価値観を押し付けたりと、「そんなつもりはなかったのに」という経験はないでしょうか。 コミュニケーションを通して、聞き手も話し手も、「聞けて（話して）よかった」、「違う意見だけど、なるほど!」、「こういうことがお母さんは知りたかったのか」などともに笑顔になれる次につながる関係性を築くことが望ましいと考えます。それは私たちコメディカルにとって重要なスキルではないでしょうか。 本ワークショップでは、伝える、話す中での自分自身の特性や陥りやすい傾向など皆さんと一緒に考える時間になりたいと思っています。事例やグループワークを取り入れながら、どのような伝え方があるのか、他の参加者は何に気をつけているかなど意見交換しませんか。明日から使える自分だけの最高の「伝え方」を見つけてみましょう。		
WSのタイプ	問題解決型と研修型の混合型	対象
定員	20 名	制限なし
1 施設からの定員	制限なし	
当日参加	可	
参加費	無料	

WS25-16		定期予防接種の適正な委託料金を考える
(リーダー)	藤岡 雅司 (ふじおか小児科：医)	
(サブリーダー)	片岡 正 (かたおか小児科クリニック：医)	
定期予防接種は市町村が実施主体となる自治事務であり、主に郡市区医師会との委託契約における委託料金の算定は各自治体に任されています。ほとんどの自治体においては、医科診療報酬点数表の金額を準用しており、国が地方交付税の算定根拠とする「問診料等」の基準単価についても同様です。しかし、予防接種の業務内容は健康保険法に基づく「疾病又は負傷を治癒させたり症状を軽快にしたりするための（医療）行為」ではないことは明白であり、単に金額といえども医科診療報酬点数表を準用することに合理性はありません。 昨年のワークショップでは、適正な委託料金の算定根拠を検討する前提として、予防接種にかかる業務内容を時系列に沿って詳細に検討しました。①母子健康手帳での予防接種歴の確認、②予防接種の必要性の説明、③接種スケジュールの提案、④副反応や健康被害救済制度の説明、⑤保護者からの質問への対応、⑥ワクチンの納入と保管、⑦接種日時の設定と予約、⑧接種対象者であることの確認、⑨予診票の記入及び確認、⑩重篤な副反応への薬品等の準備、⑪予診（予診票を用いた問診、診察、質問への回答等）、⑫接種の最終意志の確認、⑬ワクチン製剤の準備、⑭接種、⑮接種後の健康状態の観察と対応、⑯記録（接種済証の交付又は母子健康手帳への記載）、⑰接種後の注意事項の説明、⑱次回の接種内容の提案と予約、⑲副反応疑いへの対応、⑳市町村への実施報告書と予診票の提出、㉑予診票（控）と接種記録を記した診療録の保管、㉒医療スタッフに対する教育や業務手順の検討等、㉓複数ワクチンの同時接種での付加的内容などが業務として挙げられました。 今回のワークショップでは、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会における議論に資することを目的として、適正な委託料金をより具体的な形で提示したいと考えています。定期接種事業に主体的に関わる立場にある医師の参加を希望します。		
WSのタイプ	問題解決型	対象
定員	30 名	医師
1 施設からの定員	1 名のみ	
当日参加	不可	
参加費	無料	

WS25-17		ビタミンD 欠乏とその対応：なぜ今問題になっているのか、われわれはどうすべきか？
(リーダー) (サブリーダー)	伊藤 純子 富本 和彦 井上 佳也 加地 はるみ 津留 智彦 仲村 和子 中村 豊 古川 裕 宮田 章子	(虎の門病院 小児科：医) (とみもと小児科クリニック：医) (井上こどもクリニック：医) (加地医院：医) (つるこどもクリニック：医) (仲村医院：医) (ゆたかこどもクリニック：医) (ふるかわ医院：医) (さいわいこどもクリニック：医)
診療ガイドライン検討会主催のワークショップで、英文抄読を中心に行います。本年のテーマは「ビタミンD 欠乏とその対応」にしました。世界的なコンセンサスが2016年に出されており、ビタミンD 欠乏の多さとその影響が述べられたうえで、乳幼児や妊婦への補充の必要性が示されています。どのような根拠をもとにこのコンセンサスが作られているかを、英語論文を読むことによって理解し、日本において今後どのような対応が必要であるかを考えたいと思います。英語論文には解説を加えて、英語が得意でない方でも読むポイントがわかるような抄読会になっています。		
WSのタイプ	問題解決型と研修型の混合型	対象
定員	30名	制限なし
1 施設からの定員	制限なし	
当日参加	可	
参加費	無料	



8月26日(日) 9:00～11:30

ガラス棟 G404

WS26-1		医療安全からみた予防接種の間違い防止策
(リーダー)	崎山 弘	(崎山小児科：医)
(サブリーダー)	木実 谷智久	(さいわい子どもクリニック：医)
	野田 誠治	(さいわい子どもクリニック：事)
予防接種の間違い防止策を各医療機関で作成できるようになるために、参加医療機関が提出する事例をもとにして演習を行うワークショップです。参加対象は医師、コメディカルを問わず1医療機関あたり2名まで、最大15医療機関を定員といたします。 医療に安全は存在しません。事故がなかった状態を後方視的に安全だったと表現しているだけです。小児科クリニックで行う予防接種は通常の病気の診察に較べると使う医薬品の種類も少なく手順の種類も限られています。予防接種の事故予防も簡単そうに思えますが、「ヒヤリハットの共有」、「確認の徹底」、「チェックリストの使用」だけでは残念ながら大きな効果が達成できていないのが現状です。大規模な病院で医療安全の技法として頻用されるRCA(Root cause analysis：根本分析)などは小規模な医療機関では手間がかかって使い勝手がよくありません。さらに各医療機関によって職員数、建物の構造と動線、予防接種の実施数などの条件が異なります。事故予防策には一つの正解があるのではなく、リスクを減減する複数の方法から各医療機関に相応しいものを選ぶという形になります。 以下の構成に従って、参加者に学習してもらうことを考えています。 自己紹介など(10分) 1、リスクマネジメント総論の講演(30分) 2、モデル事例を素材にしての演習(20分) ・何がリスクであるかをみつける。(リスクの同定と評価) ・リスクへの対応方法(リスクの排除、リスクを受け入れるなど)の決定 ・医療機関で実行する手順に落とし込む 3、参加する各医療機関での事例で対応策の作成(10分) 4、参加者による発表と検討(60分) 5、まとめ(10分) 休憩や予備の時間として20分確保 学会の1か月後に、各医療機関で行動変容が行われたか、実際に事故予防に役立ったかどうかをアンケート調査して終了する予定です。		
WSのタイプ		問題解決型
定員		30名
1施設からの定員		2名まで
当日参加		不可
参加費		なし
		制限なし

8月26日(日) 9:00～11:30

ガラス棟 G405

WS26-2		優しさ、真心、熱意で虐待は随分予防できる ＝間主観的(心の響き合い)親支援による虐待予防＝
(リーダー)	澤田 敬	(認定NPO法人 カンガルーの会：医)
(サブリーダー)	松原 徹	(城東こどもクリニック&病児保育室『小鳥の森』：医)
	新津 直樹	(新津小児科医院：医)
	澤田 由紀子	(高知県四万十町健康福祉課医監：医)
	赤平 幸子	(城東こどもクリニック&病児保育室『小鳥の森』：看)
子ども虐待は毎年増加している。虐待は死亡になる危険性がある。死亡しなくても身体的、精神的に重篤な後遺症を残す危険性があり、どうしても予防しなくてはならない。虐待に至る子育て混乱の原因には、父母(以下母と略す)の子ども時代の被虐待経験、現在の混乱(貧困、若年、DV、家庭内不和、精神疾患、温かい支援がない、相談相手がない等)等がある。 母の養育で心に傷ついた子どもには、甘え療法(抱っこ、おんぶ、添い寝、一緒入浴、一緒遊び療法)をしている。子どもは心が満たされないと色々な症状を出し、養育者が全面的に受け入れてくれると、激しく甘え、心が満たされると、混乱した心は安定した心に育ち直り、症状は消え、より強い信頼関係を作る。②甘え療法は養育者の間主観的感性、受容の心があって初めて成り立つ。混乱した母に対して間主観的支援をしている。①支援者に相談してくれたことに感謝する。混乱の中を生き延びている母から、“生きるとは・・・、家族とは・・・”を教えてもらう(間主観的支援)。②カウンセリングが上手にできなくても、そっと寄り添い、その人の立場に自分を置いて、感じてみる(同一化・共感)、優しさ、温かさ、熱意、真心、信頼関係で支援する。赤ちゃんを育てる母親の感覚で温かく支えることがカウンセリング以上に治療的効果がある(ボストン変化プロセス研究会)。③信頼関係ができると母自ら自分の心の混乱を話してくれることが多い。傾聴をし、説教はしない。指導でなく、温かい支援をすることで心は落ち着く。④母自身が心の混乱を話さない時、それとなしに母の子ども時代の父母のこと、今の家庭状態を聞き、トラウマ的表象(心の物語)の整理ができるカウンセリングをする。 以上を母に一番近くにいる看護師、助産師、保健師、保育士、小児科医を中心に取り組むことで、多くの母が救われ、虐待は予防できる。現場の人の経験発表を基に皆で考えてみたい。		
WSのタイプ		研修型
定員		40名
1施設からの定員		制限なし
当日参加		可
参加費		無料
		制限なし

WS26-3		親と子への服薬支援 ～くすり嫌いを解決するために その3～	
(リーダー)	上 荷 裕 広	(すずらん調剤薬局：薬)	
(サブリーダー)	三 浦 哲 也	(アップル薬局：薬)	
	仙 敷 義 和	(信栄調剤薬局：薬)	
	齋 藤 栄 二	(あおば薬局：薬)	
小児科外来において服薬を拒む患児に遭遇することは稀でなく、小児科医療に携わる私たちにとっては永遠のテーマであると考えます。服薬拒否を解決するための手法を学ぶワークショップは当学会の初期から行ってきたが、過去3回の年次集会におけるワークショップでは「解決に向けてのアセスメントから何を考え、親と子にどのような指導や支援を行えば良いのか…」を事例検討から参加者に体験していただいてスキルアップを図ってきた。毎回異なる事例設定を行うことで、参加者に新たな気づきを与えることが出来ていると考えます。 そこで今回も子どもたちのくすり嫌いを解決するために、単なる飲ませ方の工夫を学ぶのではなく、「くすりを飲まない」という行動の本質的な原因を考えることから、子ども自身の成長や生活習慣、ひいては親子関係にまで介入することで解決に導く手法を学びたいと考える。親と子に気づきを与えるだけでなく、両者を納得させることで行動変容を引き起こすことが可能となるため、その手立てを参加者と一緒に学びたい。 くすり嫌いを解決するための服薬支援ではなく、服薬を通じた育児支援をメディカルスタッフが行うことが可能となれば、保護者にとって小児科外来の魅力がさらに高まることになると考えて本ワークショップを開催したい。			
WSのタイプ		問題解決型と研修型の混合型	対象
定員		40 名	制限なし
1 施設からの定員		1 名のみ	
当日参加		不可	
参加費		無料	

WS26-4		ワクチンに関する誤解 ～私たちにできることを考えよう～		
(リーダー)	藤岡 雅司	(ふじおか小児科：医)		
(サブリーダー)	宮原 篤	(かるがもクリニック：医)		
	堀 成美	(国立国際医療研究センター：看)		
安全な水と並びワクチンは公衆衛生の分野で大きな成果をあげてきました。ワクチン導入によって、ワクチン予防可能疾患の発生や死亡は大幅に減少しました。医療関係者にとって、ワクチンの有効性、安全性、必要性は、あらためて確認する必要もない常識です。しかし、インターネットや一般書においては、いまだに「ワクチンは危ない」「ワクチンは不必要」という誤った言説が流布されています。いやむしろ、SNS の拡大に伴って、このような情報は増えているのではないのでしょうか。 ワクチンを正當に評価しない二重情報の発信や拡散においては、きわめて少数の医療関係者が関与しています。彼らは医学的根拠があるかのように装った情報を、聞き心地の良い言葉や巧妙なレトリックを駆使して、まことしやかに流しています。子どもの健康についてまじめに考えようとする保護者ほど、彼らの言葉を信用し、ワクチンに関して誤解しやすいかもしれません。ワクチンの効果は実感しにくい、ひとたび不安や懸念、恐怖を抱いてしまうと、接種を保留あるいは拒否するようになります。 先進諸国ではワクチンに関する誤解はその内容が似通っています。「ワクチン導入前に病気は減っていた」「病気にかった人の大半はワクチンを受けていた」「多くの有害な副作用があり、長期的な影響は未知」「病気は無くなったので接種の必要はない」「同時接種は免疫系を攪乱させる」「よく考えて必要なワクチンだけ受けよう」など。 このようなワクチンに関する誤解に対して私たちは何ができるでしょう。無視をする、相手にしないというのも一つの方法でしょう。しかし、ワクチンに反対する医師は賛同者を増やすために SNS 等での拡散や仲間作りを呼びかけています。本ワークショップにおいては、予防接種業務に携わっている私たち自身が、実際の診療場面において何ができるのか、何をすべきかを考えていく予定です。				
WSのタイプ		問題解決型と研修型の混合型		対象
定員		30 名		制限なし
1 施設からの定員		2名まで（2名の場合、少なくとも 1 名は医師であること）		
当日参加		可		
参加費		無料		

8月26日(日) 9:00～11:30

ガラス棟 G410

WS26-5		みんなが笑顔になれる母乳育児支援② ～小児科医としての関わり～	
(リーダー)	瀬川 雅史	(のえる小児科・母乳育児支援センター：医)	
(サブリーダー)	古賀 亮一	(古賀小児科：医)	
	張 尚美	(緑の森こどもクリニック：医)	
	加藤 育子	(香川大学医学部小児科：医)	
	江田 明日香	(かるがも藤沢クリニック：医)	
	長田 郁夫	(子育て長田こどもクリニック：医)	
小児科医が母乳育児支援を行うメリットとしては、母子の健康促進はもちろんのこと、子どもの成長・発達を評価できること、栄養障害や発達障害、その他の疾患を早期発見できることなどがあげられる。また育児支援の一環として母乳育児支援は重要な位置にある。しかし、時間と資源の限られた外来診療の中では、「母乳で育てましょう」「なるべく母乳で」などの声かけだけで終わってしまったり、実際の支援は助産師に任せっきりになっていたりすることが多い。 前半の座学では、とかく母乳不足と短絡的にとらえられることの多い「ゆっくり体重が増える児」と「体重増加不良の児」の見分け方、母乳摂取量を増やすためには具体的にどう対処すればいいかについて学ぶ。母乳で育つ子どもの標準的な成長・発達を理解し、ポジショニング（抱き方）とラッチ（含ませ方）など授乳の最も基本的な技術を伝えたりするだけで、効果が得られることも多い。また男性医師が外来診療の中でどのように母乳育児支援に関わっているかその現状についても報告する。 後半のグループワークでは、「ゆっくり体重が増える児」や「体重増加不良の児」の症例を、前半の座学で学んだ知識を元に、母乳育児支援の観点から対処法について話し合う。小児科医自身が外来診療の中でどこまで関わるができるのか、他職種といかに連携していくのかについても検討したい。			
WSのタイプ		問題解決型と研修型の混合型	対象
定員		30 名	医師
1 施設からの定員		制限なし	
当日参加		可	
参加費		500 円	

8月26日(日) 9:00～11:30

ガラス棟 G504

WS26-6		地域医療の中での小児科医の役割 —少子高齢化社会の中で—	
(リーダー)	松浦 伸郎	(松浦医院：医)	
(サブリーダー)	川島 崇	(川島内科クリニック：医)	
	及川 馨	(及川医院：医)	
少子高齢化が進むにつれ小児科の将来は不安要素が多くなってきている。特に地方にいくほど小児科のみの診療がむづかしくなっている。前回の WS では小児科診療はかぜ診療のみでは診療所の経営に不安が残ると答えた方が多く、有料ワクチンの予防的啓発や発達障害、虐待、健診業務などにさらに深く関与していく必要性が示唆された、しかしこれらは小児科医の仕事ではあるものの保険診療になじみにくく、小児科診療の中でどのように発展させていけばいいのかさらに検討してみたい。また 地域差が大きく小児科医の役割は地域にあわせて大きく変わりうる。しかし現状では大都市の地域の小児科医の業務でさえ、小児科単独では賄い切れていない。一方では子供が減少、公的業務も縮小し小児科医が必要とされなくなっている地方の現状がある。少子高齢化を迎える中での小児科医の役割は地域の子供たちを健全に育てていくことであるが、このような小児科の使命は保険診療に沿っているとはいえない。このような時代になると、どのようなところにその専門性を発揮するか、また自由診療や公的業務をどのように取り入れていくか問題なる。今後小児科の期待される役割を担っていくには地域連携を含めてどのような方向性が期待されるのかさらに検討したい。			
WSのタイプ		問題解決型	対象
定員		30 名	医師
1 施設からの定員		1 名	
当日参加		不可	
参加費		無料	

8月26日(日) 9:00～11:30

ガラス棟 G505

WS26-7		始めてみよう、小児漢方 ～漢方を用いた家族へのアプローチ～	
(リーダー)	森 蘭子	(森こどもクリニック：医)	
(サブリーダー)	坂崎 弘美	(さかざきこどもクリニック：医)	
	木全 かおり	(かわしまファミリークリニック：医)	
	木許 泉	(広瀬クリニック：医)	
漢方薬は、西洋薬を補完する医療として、注目を集めているが、小児科領域では、処方率はあまり高くない。本WSは、漢方薬を小児科一般診療に取り入れてみようと考えている医師を対象に、漢方薬の処方の実際を学ぶ。これまで、風邪、発達障害、アレルギー疾患などを対象に、同様のWSを開催してきた。参加者からは、漢方薬を処方する際の考え方のプロセス、処方選択の実際が学べたとの評価をいただいている。 今回は漢方を用いた家族へのアプローチについて取り上げる。心身症、発達障害、適応障害、不登校などの心身医学的な問題を抱える子どもが多くなっている。そのようなケースの診療において、「家族」に目を向ける必要性を感じる場面が増えてきている。家族構成、関係性、役割、環境の変化などを把握し、家族の問題が患児に及ぼす影響について評価し、その問題点を解決するために、漢方薬をどのように利用するかを学ぶことが、今回のWSの目的である。 実際の進め方として、5-6名程度のグループに分かれ、模擬症例を題材にして、参加者がディスカッションしながら、問診の仕方、処方選択の過程を学ぶ。事前学習として、基本処方の使い方などは、文献や参考図書などで進める。事前に症例を募集するが、個々の症例検討で終わらないように、基本的な処方選択の考え方が学べ、学習効果が上がるような模擬症例を提示し、問診事項、診察所見などの情報を少しずつ、参加者で共有しながら、実際の診療場面に則した学習内容を考えている。この方法は、昨年度のWSで取り入れ、参加者に好評であった。最終的には、参加者一人一人が基本を踏まえつつ、自分自身の考え方、アプローチの仕方、問題解決ができるような、応用の効く知識の習得を目指す。			
WSのタイプ		研修型	対象
定員		20名	医師
1施設からの定員		2名まで	
当日参加		可	
参加費		500円	

8月26日(日) 9:00～11:30

ガラス棟 G507

WS26-8		ワクチン誤接種防止に向けてパソコンで 「注意喚起ツール」を作ろう・使ってみよう	
(リーダー)	卯月 勝弥	(シロアムこどもクリニック：医)	
(サブリーダー)	太田 文夫	(おおた小児科：医)	
	卯月 ひとみ	(シロアムこどもクリニック：保)	
本学会のインシデント調査や厚労省の誤接種情報を見ると、深刻な誤接種の項目として ①使用済み注射針の再使用 ②ワクチンの期限切れ ③被接種者（患者）の取り違い ④ワクチンの取り違い ⑤接種量の間違い などがあげられます。 多くのクリニックの予防接種外来では、職員の努力・様々な工夫で誤接種防止対策がなされていますが、成果は個々の職員の資質に依存することが多いようです。コンビニなどではPOSシステムとして在庫管理が簡単・確実になってきつつあり、入院病棟でも担当職員により患者コード、薬剤コードなどとの「3点照合」が行われるなど、個人差なく誰でもが容易に確認・記録ができそうになっています。 我々のような小規模施設でも同様のシステムが作れるはずの時代です。すでに開発・稼働中の施設があれば、このWSに御参加の上、ぜひノウハウを分けて下さい。リーダー卯月は、ワクチンのバイアルまたは外箱のバーコードと患者コードを照合して、誤接種防止の注意を喚起する簡単なツールを作って使って良好な感触を得ています。必要なのはパソコン、バーコードリーダー、表計算ソフト、患者の氏名・生年月日、ワクチンのバーコード情報ですが、上記の②～⑤の項目について注意を喚起するものです。 (参加者にはエクセルで作ったこのツールを事前に配布することも可能です。) これから挑戦の方からも希望的観測・アイデアなりをお聞かせ下さい。 あるいはエクセルが少しでも出来る方は経験と知恵を分けて下さい。 本WSでは以下のステップでの進捗を考えています。 1. このツールの試用・評価（可能ならば事前に） 2. 改良・カスタマイズの討論 3. 参加者開発のツールの試用・評価と討論 4. 課題の明確化 5. 関連方面への提言			
WSのタイプ		問題解決型と研修型の混合型	対象
定員		20名	制限なし
1施設からの定員		制限なし	
当日参加		不可	
参加費		無料	

8月26日(日) 9:00～11:30

ガラス棟 G508

WS26-9		離乳食を科学的に語ろうⅡ	
(リーダー)	岡田 清春	(おかだ小児科医院：医)	
(サブリーダー)	今西 康治	(南部徳洲会病院小児科（じねんこどもクリニック）：医)	
	瀬尾 智子	(緑の森こどもクリニック：医)	
	西村 龍夫	(にしむら小児科：医)	
	土田 晋也	(つちだ小児科：医)	
WHOは母乳や人工乳だけでは栄養が不足する乳児期後半から「補完食」を推奨しているが、現状ではその情報はあまり知られていない。医師法第一章第一条に「医師は、医療及び保健指導を掌ることによって公衆衛生の向上及び増進に寄与し」とあるように「保健指導」は我々医師の重要な責務である。小児科医の社会的な使命は、子どもたちの健全な成長と発達を支援することであり、離乳食の指導もその中に含まれる。昨年の年次集会で「離乳食を科学的に語ろう」という題でワークショップを開催したが、申し込み初日で定員に達するほど関心が高かった。当日は聴講だけの参加者も含め100名を超える方に参加していただいた。内容は「授乳・離乳支援の現状」「WHOの補完食と欧州の最新ガイドライン」「離乳期の鉄欠乏」「離乳食でアレルギーが予防出来るか?」「クリニックでの離乳食教室の紹介」と多岐にわたっており、また参加者も医師はもちろん栄養士、看護師、事務と様々であった。議論も活発でWHOの補完食についての知見も深まり、現在の日本の離乳食指導の問題点も浮き彫りになったと考えている。 しかし、プロダクトを形成するには今ひとつまとまりがなかったと反省している。そこで、本年度は参加者を医師と栄養士だけに限定し、WHOの補完食と日本の離乳食の違い、日本の離乳食指導によって不足する栄養素の問題、また、卵や小麦などの食物アレルギーの原因になりやすい食事を開始する時期の再検討など、実際の離乳食指導についてより深く議論し、さらに現状の離乳食にどのように補完食の理念を取り入れるかを考えるワークショップにする予定である。その上で、近々、募集されたいと思われる厚労省の新しい「離乳ガイドライン」に対するパブリックコメントに応募することをプロダクト目標としたいと考えている。多くの医師の参加と協力をお願いしたい。なお、参加費は外部講師を招聘する費用に当てる。招聘できなかった場合は無料とする。			
WSのタイプ		問題解決型と研修型の混合型	
定員		30名	
1施設からの定員		2名まで	
当日参加		不可	
参加費		1000円	
		対象	
		医師、栄養士	

8月26日(日) 9:00～11:50

ガラス棟 G602

WS26-10		小児救急初療コース (Triage & Action コース：小児 T&A コース)	
(リーダー)	茂木 恒俊	(久留米大学医療センター 総合診療科：医)	
(サブリーダー)	牟田 広実	(いいづかこども診療所：医)	
	土肥 直樹	(相模原市国民健康保険内郷診療所：医)	
	古家 信介	(大阪市立総合医療センター：医)	
会頭指定			
このワークショップでは、短時間の講義とその講義内容に合わせたロールプレイを行うことで次に述べる3つの到達目標を「知っている」のレベルから「できる・動ける」レベルまで達成することを目的としています。到達目標の一つ目は、「こどもの全身状態とバイタルサインから系統的にトリアージできるようにすること」です。目の前のこどもの疾患が想定できなくても、まず始めにこどものABCとバイタルサインを確認して、緊急性や重症度が高い患児を見極めることができることが目標です。2つ目は、「トリアージの内容を医療者間で情報共有しながら、適切な初期対応が行えること」です。トリアージした内容から異常を感じた際に、その異常を上手に医療者間で伝えられることと、もし緊急の初期対応が必要と感じた場合に医療者間でスムーズな連携がとれることが目標です。3つ目は、「有熱性けいれんの特徴を知ることとけいれん時の初期対応ができること」です。外来には「熱が出た」というお子さんがたくさん来ています。日本では熱性けいれんの頻度は他国に比べると高く、熱が出た子どもを診ていれば熱性けいれんに遭遇する可能性は高いと思います。そんな時に慌てず、適切な初期対応ができることが目標です。ロールプレイは6～7人の小グループ学習の形式で行い、ひとりひとりのレベルに合わせ、無理なく楽しみながら学べるようにしておりますのでご安心ください。			
WSのタイプ		研修型	対象
定員		30 名	制限なし
1 施設からの定員		3 名まで	
当日参加		可	
参加費		無料	

8月26日(日) 9:00～11:30

ガラス棟 G605

WS26-11		小児科外来における渡航ワクチンの 基礎と実践	
(リーダー)	岡藤 隆夫	(岡藤小児科医院：医)	
(サブリーダー)	福島 慎二	(東京医科大学病院 渡航者医療センター / 感染制御部：医)	
グローバル社会を迎え海外渡航が日常となった現在、国境を越えて移動する子供たちの数も増えていきます。渡航する国や地域によって衛生状態や流行している感染症も様々であり、子供たちの健康リスクも異なります。こうしたリスク管理のひとつにワクチン接種が挙げられます。渡航先に合わせたワクチンスケジュールを立て、渡航前に済ませるべきワクチンを確実に接種することが小児科外来で必要となってきました。 「今度タイに引っ越すのですが、子供の予防接種はどうしたらいいですか?」「アメリカの学校に留学するのですが、その際に必要な予防接種と証明書の発行をお願いしますか?」このような質問にどのように対応したらいいのでしょうか。今回のWSでは、前半に渡航医学の概論と渡航ワクチンの基礎について学び、続いて渡航先別に必要なワクチンの接種スケジュールの立て方を学びます。後半は、上記のような実際に相談されるであろう具体的なケースについて、その対応方法を質疑応答を交えて学んでいきたいと思います。			
WSのタイプ		研修型	対象
定員		20 名	制限なし
1 施設からの定員		1 名	
当日参加		可	
参加費		無料	

8月26日(日) 9:00～11:30

ガラス棟 G610

WS26-12		子どもの貧困に気づき支援するために part3	
(リーダー)	和田 浩	(健和会病院小児科：医)	
(サブリーダー)	武内 一	(佛教大学：医)	
	佐藤 洋一	(和歌山生協子ども診療所：医)	
	山口 英里	(千鳥橋病院小児科：医)	
	山口 有紗	(国立成育医療センター：医)	
日本の子どもの7人に1人が貧困状態にあり、貧困は子どもの心身の健康を悪化させます。しかし「患者さんの中にそういう子がいるかどうかわからない」という方や「そういう子がいても何をしてあげられるかわからない」という方が多いと思います。このワークショップでは、今までに「医療現場でどう貧困に気づくか」「医療者にどんな支援ができるか」を考えてきました。今回はそうした蓄積を「貧困問題初心者」の皆さんに、レクチュアとディスカッションを通じて学んでいただきます			
WSのタイプ		研修型	対象
定員		40名	制限なし
1施設からの定員		2名まで	
当日参加		可	
参加費		無料	

8. 一般演題募集のご案内

申込期間

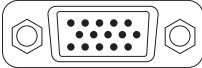
2018年4月16日(月)～5月13日(日)

一般演題の発表形式は原則として口演(PC形式)とポスター発表の両方といたします。口演のすべてを聞くことはできないため、ポスターを展示して口演内容をいつでも見るようにしています。ただし、口演時間枠には限りがありますので、応募演題が多数の場合にはポスター発表のみをお願いする場合があります。また、ポスター発表のみを希望される場合には応募時にお申し出ください。日常診療における取り組みや現在進行中の研究に関する演題も大歓迎です。

ご発表いただいた一般演題の中から、優秀演題が選出されます。会長・実行委員で構成する選考委員会で審査し、「最優秀賞」を、閉会式にて表彰いたします。

■発表形式

1. 口演発表

- 口演は**発表6分、質疑3分**の予定です。
 - 口演に使用する機器はPCプロジェクター1基とさせていただきます。
 - 事務局が用意するパソコンOSはWindows版、発表用ソフトはマイクロソフト社製パワーポイント(PPT)2013-2016です。動画を使用する場合はWindows Media Player (Ver.10以上)で再生されるファイルをご使用になり、ご自身のノートパソコンをお持ちください。なお、音声についてもご利用いただけますので、当日PC受付にお申し出ください。
 - Macintoshを使用される場合にはご自身のパソコンとACアダプターをお持ちになり、D-SUB15ピンの端子で接続できるようご準備ください。
- 
- D-SUB15ピン
- ご発表のデータは相互のウイルス感染を防ぐため、できる限りCD-R(CD-R/W、DVDは不可)でお持ちください。USBメモリーでお持ちになる場合には、セキュリティ管理に十分な配慮をお願いいたします。いずれの場合も念のためにバックアップデータをご用意ください。
 - 口演日時(予定、全体プログラム構成の都合上、変動する事もございます)。
8月25日(土) 9:20～11:50、14:15～16:45
8月26日(日) 9:20～11:50
(WSリーダー等をされる方は予定日時などを明記してください)
 - 色覚異常者のためのバリアフリープレゼンテーションについて
学会参加者の中には色覚に異常を持った方がいらっしゃいます。スライド作成の時にご注意ください。具体的には、分かりやすい文字と背景の組み合わせを選び、特に黒バックに濃い赤字は避けください。色は3色程度までに抑えてください。
 - グラフは塗りつぶしパターンを変えるなど白黒印刷でも判断できる図表にしてください。

2. ポスター発表

■展示サイズ

掲示には縦210cm、横90cmのパネルを用意いたします。

上部縦20cm、横70cmには演題名、発表者名、所属を掲示してください。

発表内容は縦180cm、横90cm内に、要旨、目的、結果、考察、結語の順で収まるように掲示してください。図、表を含めスペース:A3用紙10枚程度をお願いいたします。演題番号表示とプッシュピンは事務局で用意いたします。

■ポスター展示

- 貼付：8月25日(土) 9:00～12:00
- 展示場所：東京国際フォーラム ホールE
- 展示期間：8月25日(土) 12:00～19:00
8月26日(日) 9:00～13:30

- ・ 撤 去：8月26日(日) 13:30～14:30
※ 14:30以降になっても撤去されない場合は事務局にて撤去させていただきます。

■ 演題発表時における利益相反(COI)の開示について

第28回年次集会では平成23年2月に日本医学会が公表した「医学研究のCOI マネージメントに関するガイドライン」に則して、口演およびポスター発表における演題登録の際、利益相反の開示すべき項目の有無について申告いただくことになりました。ご理解の上、よろしくお願いいたします。

第28回日本外来小児科学会年次集会
COI 開示
筆頭演者氏名：○○○○

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などとして、
⑥委託研究・共同研究費：○○製薬
⑦奨学寄付金：○○製薬
⑧寄付講座所属：あり ○○製薬

↑ 開示すべき内容がある項目のみ記載

- ①顧問 ②株保有・利益 ③特許使用料 ④講演料 ⑤原稿料 ⑥委託研究・共同研究費
⑦奨学寄付金 ⑧寄付講座所属 ⑨贈答品などの報酬

■ 利益相反の開示すべき項目(日本小児科学会に準ずる)

- ・ 産学連携活動に係る受け入れ額が、1企業あたり年間200万円以上(所属機関からの間接経費が差し引かれる前の金額)の場合
 - ・ コンサルト、指導、講演、給与としての個人収益が、1企業あたり年間100万円以上(税金や源泉徴収額を引く前の金額)の場合
 - ・ 産学連携活動に係る個人収益(公開・未公開を問わず、当該企業の株式等の出資・取得・保有及び売却・譲渡、ストックオプションの権利譲受、もしくは、役員報酬、特許権使用料等)が1企業あたり年間100万円以上あった場合(但し、投資信託、もしくは、当該個人によって管理・制御できない多角的なファンドにおいて資金運用される場合を除く)
 - ・ 上記のいずれかに該当する企業に一親等の親族が現在勤務している場合
- ※ 個人収益の場合は、前年1月1日から12月31日まで、ただし、寄付金や企業からの受託等、産学連携活動に係る研究の場合は、前年4月1日から本年3月30日までの期間でも可。

■ 申込方法

- ・ 演者または共同演者のうち少なくとも1名は日本外来小児科学会の会員であることが必要です。
- ・ 一般演題は原則として年次集会公式ウェブサイト
<http://web.apollon.nta.co.jp/sagpj28/> からのオンライン登録によって受付いたします。

■ 採否等の連絡

- ・ 演題の採否、発表形式、発表日時等につきましては実行委員会にご一任ください。
- ・ なお採否に関する実行委員会へのお問い合わせはご遠慮ください。
- ・ 採否につきましては6月末までにご連絡いたします。

■ 個人情報保護等に関する発表上の注意

本年次集会での発表にあたっては適切な倫理的配慮を行ってください。特に個人情報保護の観点から、その発表内容には患者やその他の関係者が特定出来る情報は表示しないようお願いいたします。

なお、患者の顔写真等を使用する場合は本人もしくは保護者の同意が得られているものとします。

9. パネル展示募集のご案内

募集期間

2018年4月16日(月)～5月26日(金)

1. 院内報（誌）の展示

各医療機関で発行している院内報をそのまま展示してください。

2. 医療保育ネットワーク等の展示

外来診療の場での、保育士他の方のみなさんのご活躍をご紹介します。

■発表形式

1. ポスター、写真、印刷物は210cm×90cmのパネルに貼付してください。
2. 本や診療の小道具、おもちゃなどの展示はパネル前に幅180×奥行45cm×高さ70cmの机を設置することで可能となります。但し、使用幅はパネル幅と同様幅90cmで、1本の机を2者で共有使用とさせていただきます。
3. 展示番号とプッシュピンは事務局で用意いたします。

■展示場所と時間

展示場所：東京国際フォーラム G棟会議室 又は ホールE

貼付：8月24日(金)16:00～19:00

展示期間：8月25日(土)9:00～16:40

8月26日(日)9:00～13:30

■応募方法

パネル展示募集期間：2018年4月16日(月)～5月11日(金)

- ◎ パネル展示は年次集会公式ウェブサイト (<http://web.apollon.nta.co.jp/sagpj28/>) から申込書をダウンロードして、eメール (sagpj_28@nta.co.jp) へお申し込みください。
- ◎ ご発表の内容が企業の協力を得ている、ないしは共同研究に該当する場合には、申し込みの際に必ずお申し出ください。

第28回日本外来小児科学会年次集会運営事務局
(株)日本旅行 ECP 営業部内
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19
虎ノ門マリビル 11F
email: sagpj_28@nta.co.jp
営業時間：平日9:30～17:30 (土日祝休)

■採否等の連絡

- ・ パネル展示の採否については運営委員会にご一任ください。
- ・ 応募数が規定数を超えたときはお断りすることもあります。
- ・ 展示物の搬入・搬出の時間・方法につきましては、展示決定通知の際にご案内いたします。7月6日(金)までにご案内する予定です。
- ・ 展示期間中の展示物の損傷や紛失などに関しましては実行委員会では責任を負いかねます。展示期間中の展示物の保管が必要な場合は、各自でお願いいたします。

10. 患者家族の会・支援者の会展示募集のご案内

募集期間

2018年4月16日(月)～5月25日(金)

■展示形式、参加に際してのお願いなど

1. ポスター、写真、印刷物などは、実行委員会で用意する縦 210cm × 横 180cm のパネルに貼付してください。
2. 会の紹介パンフ・書籍・カンパグッズなどは、パネル展示前の机を 1 卓用意しますので、ご利用ください。
3. カンパ及び署名集めは、会の各ブースでお願いいたします。資料配布などは、実行委員会に確認の上、通行等の妨げにならない範囲でお願いいたします。

■展示日時など

展示物搬入： 8 月 24 日(金) 16:00～19:00 (予定)

展示場所： 東京国際フォーラム ホール E

所在地：〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-5-1

電話：03-5221-9000 ホームページ：<https://www.t-i-forum.co.jp/>

展示期間： 8 月 25 日(土) 9:00～16:30 (予定)

8 月 26 日(日) 9:00～13:30 (予定)

※ 8 月 26 日(日) 14:30 以降になっても撤去されない場合は、事務局で処分いたします。

■採否などの連絡

- ・ 応募が規定数を超えた場合は、お断りすることがあります。
 - ・ 採否は、実行委員会にご一任ください。慎重に検討の上、平成 30 年 6 月下旬までに採否と割当をご連絡いたします。
- ※ 展示期間中の展示物の損傷や紛失などに関して、大会事務局で責任を負いかねます。展示物の保管が必要な場合は各自でお願いいたします。

11. メディカルスタッフミーティングのご案内

メディカルスタッフミーティング

8月26日(日) 9:00～11:30

ホール D7

～みんなで楽しく「話そう」「知ろう」「考えよう」いろいろな話題～

コーディネーター 太田 まり子 (おおた小児科)

対象 医療機関で働くメディカルスタッフ

人数 150 名程度

メディカルスタッフの皆様、日々の仕事の中で、困っていることや、気になっていること、知りたいこと、聞いてみたいこと、自慢したいこと、などを自由な雰囲気話してみませんか。

外来小児科学会に参加する楽しさは、一言でも発言してみること！全国に知り合いもできます。

自院以外の話や、自分以外の人の知識や考え方は、宝の山です。

看護、事務、総務、等から皆様のご希望も考慮し、幅広い話題を取り上げる予定です。

事前申込を受け付けます。申込の状況により、当日受付も検討します。

2018年4月16日(月)～5月25日(金)

第28回年次集会公式ウェブサイトからお申し込みください。

なお、事前申込の際、簡単なアンケートがありますのでご協力ください。

■コメント

メディカルスタッフ とは

「コメディカル」「パラメディカル」など、呼称の変遷がありましたが、今回の外来小児科学会では「小児科に関わる職種のうち、医師以外のスタッフ」をメディカルスタッフと表現しています。

掲示募集 「私（たち）からも情報発信！」

小児の外来診察や治療、薬、看護、介護、保健、福祉、行政、サービス、支援など、小児やその家族に関する様々な取り組み・工夫・アイデア・クリニックや病院の紹介・研修プログラムの紹介・共同研究のお誘い 等々、皆様に自由に情報発信をしていただくコーナーです。

1 件につき A4 用紙 2 枚以内にまとめて下さい。

お申込み方法・貼付・展示する会場・時間は後日、年次集会公式サイトにて発表いたします。

年次集会公式ウェブサイト <http://web.apollon.nta.co.jp/sagpj28/>

12. 講習会のご案内

1. BEAMS Stage 1 講習会 **要事前申込**

8月26日(日) 10:45~11:45

ガラス棟 G701

BEAMS とは？

被虐待児を早期に発見し、適切な医学的診断を行い地域へつなげることは、我々に課せられた重要な使命です。BEAMS = 医療機関向け虐待対応プログラムは、3つのステージで構成される子ども虐待に如何に対応すべきか学べるプログラムです。今回は、すべての医療関係者向けのプログラムである、BEAMS Stage 1 を開催します。「子どもの虐待って、どう対応したらいいの？」と困っている皆さん。この機会に是非受講していただき、日常診療に役立ててみてください。

司会 濱田 洋通 (東京女子医科大学八千代医療センター小児科)

講師 仙田 昌義 (国保旭中央病院小児科)

2. 医療倫理講習会 (倫理委員会主催)

8月25日(土) 16:00~17:00

ホール D5

小児医療従事者のための研究倫理

司会 幸道 直樹 (医療法人こうどう小児科)

講師 田代 志門 (国立がん研究センター社会と健康研究センター生命倫理研究室・研究支援センター生命倫理部・中央病院臨床倫理支援室)

3. 医療安全講習会 (質の向上委員会主催)

8月26日(日) 13:15~14:15

ホール D1

小児科外来におけるインシデントの「傾向と対策」

日本外来小児科学会が実施している「インターネットを利用した小児科外来におけるインシデント全国調査 (略称: LEAP Study)」に過去 7 年間に寄せられた報告の分析結果を報告し、個人のスキルアップと多職種の連携で実施可能な対策について解説します。

講師 齊藤 匡 (国保多古中央病院小児科)

13. 特別講演のご案内

1. 沈みゆく大国アメリカ～逃げ切れ！日本の医療～

8月25日(土) 14:15～15:45

ホール B7

座長：齊藤 匡 (国保多古中央病院小児科)

演者：堤 未果 (国際ジャーナリスト)

国際ジャーナリスト。ニューヨーク州立大学国際関係論学科卒業。ニューヨーク市立大学大学院国際関係論学科修士号。国連、米国野村證券を経て現職。米国の政治、経済、医療、福祉、教育、エネルギー、農政など現場から幅広く取材。マスコミが伝えない真実を、執筆、講演、メディアなどで発信中。「ホンマでっか?! TV」「朝まで生テレビ」「NHK クローズアップ現代」など出演多数。2006年に「アメリカ弱者革命」で日本ジャーナリスト会議黒田清賞。2008年「ルポ貧困大国アメリカ」(3部作)で中央公論新書大賞、2009年に日本エッセイストクラブ賞。多数の著書は海外でも翻訳され高く評価されている。新刊に「アメリカから自由が消える増補版」(扶桑社)「核大国ニッポン」(小学館)。夫は参議院議員の川田龍平氏。



2. 小児科プライマリケアの課題と将来

8月25日(土) 16:00～17:00

ホール B7

座長：横田俊一郎 (横田小児科医院・日本外来小児科学会会長)

演者：佐藤 好範 (さとう小児科医院・千葉県小児科医会会長)

3. 子育てロックンロール 男性不妊を乗り越えて

8月26日(日) 9:00～10:30

ホール B7

トーク：ダイヤモンド☆ユカイ

聞き手：黒木 秀子 (読書教育法アニメーション研究)

1962年 東京生まれ。

1986年、伝説のロックバンド「RED WARRIORS」のボーカルとしてメジャーデビュー。解散後は「ダイヤモンド☆ユカイ」として、ソロ活動を開始する。

現在は音楽活動を中心に舞台・映画・バラエティー番組に出演するなど幅広く活動する。

2016年にはミュージカル「ミス・サイゴン」にエンジニア役で出演し、帝国劇場のセンターに立つ。私生活では47歳にして自身の男性不妊を乗り越え長女を授かる。

2011年に自身の不妊治療と夫婦の愛と葛藤の日々を綴った「タネナシ。」を発刊し大きな反響を呼んだ。現在1女2男の父親



4. 子育て世代包括支援 ネットボラの実践モデルとしての世田谷区(仮題)

8月26日(日) 10:45～11:45

ホール B7

座長：涌水 理恵 (筑波大学医学医療系小児保健看護学)

演者：保坂 展人 (東京都世田谷区長・前衆議院議員)



14. 教育講演のご案内

1. 病気の子どもの気持ちを支えること

8月25日(土) 9:00~10:00

ホール D1

座長：西垣 佳織 (聖路加国際大学大学院看護学研究科小児看護学領域)

演者：副島 賢和 (昭和大学保健医療学研究科)

2. 川崎病の新しい話題

8月25日(土) 10:50~11:50

ホール D5

座長：伊藤 純子 (国家公務員共済組合連合会虎の門病院)

演者：森 雅亮 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生涯免疫難病学講座)

3. 児童発達支援の実際と療育業界の動向

8月25日(土) 10:50~11:50

ホール B7

座長：阿部 啓次郎 (あべこどもクリニック)

演者：小田 知宏 (特定非営利活動法人発達わんぱく会)

4. 子どもの眠り

8月25日(土) 14:15~15:15

ホール D1

ー身近でありながら認識されづらい「睡眠不足症候群」を中心に

座長：津留 智彦 (つるこどもクリニック)

演者：神山 潤 (東京ベイ・浦安市川医療センター)

5. 目からウロコ！ 小児歯科から学ぼう

8月25日(土) 14:15~15:45

(離乳食から睡眠時無呼吸まで)

ホール D7

座長：太田 文夫 (おおた小児科)

離乳食で口を育てる

演者：外木 徳子 (とのぎ小児歯科)

小児の睡眠関連呼吸障害は予防できるか？

ー口腔顎顔面の成育と睡眠呼吸の関連性を追求してー

演者：外木 守雄 (日本大学歯学部口腔外科学講座口腔外科分野)

6. 思春期 ネット・スマホ依存

8月25日(土) 15:30～16:30

ホール D1

座長：市河 茂樹 (安房地域医療センター小児科)

演者：樋口 進 (久里浜医療センター)

7. 子どものくつ～選び方とはき方の教育～

8月25日(土) 15:45～17:15

ホール D7

座長：松田 隆 (まつだ小児科医院)

演者：吉村 眞由美 (早稲田大学人間科学学術院 招聘研究員)

8. 小児の画像診断 UP TO DATE

8月26日(日) 9:00～11:30

ホール D5

座長：野上 哲夫 (野上小児科医院)

胸腹部のX線診断

河野 達夫 (東京都立小児総合医療センター放射線科)

腹部救急疾患のエコー診断

内田 正志 (JCHO 徳山中央病院 小児科)

頭部外傷の診断の基礎

津田 恭治 (東京都立小児総合医療センター脳神経外科)

15. 招待講演のご案内

1. グリーフケア

8月25日(土) 10:50~11:50

ホール D1

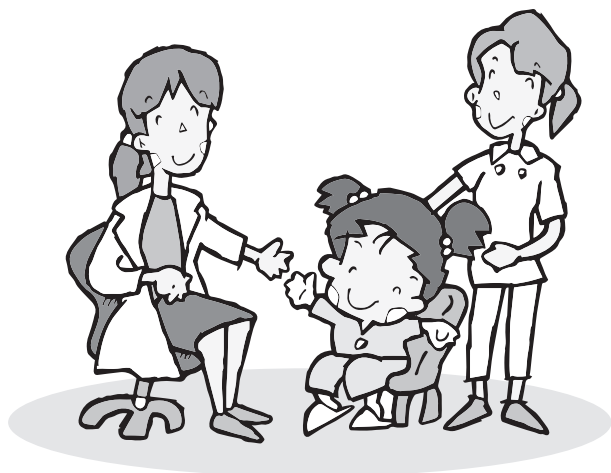
座長： 涌水 理恵 (筑波大学医学医療系小児保健看護学)
高畑 紀一 (一般社団法人 Plus Action for Children)
演者： 坂下 裕子 (子どもを亡くした家族の会 小さないのち)
田上 克男 (特定非営利法人 SIDS 家族の会)

2. 医療への暴言・暴力

8月26日(日) 13:15~14:45

ホール B5

座長： 涌水 理恵 (筑波大学医学医療系小児保健看護学)
演者： 三木 明子 (関西医科大学看護学部)



16. シンポジウムのご案内

1. 講演と対談 こどもの生活、こどもの世界 8月25日(土) 9:00~10:30 ホール B7

座長：涌水 理恵 (筑波大学医学医療系小児保健看護学)

講演 こどもの発達と環境の役割 生活と遊びの質を問う

秋田 喜代美 (東京大学大学院教育学研究科)

対談 絵本・児童書から見るこどもの世界

秋田 喜代美 (東京大学大学院教育学研究科)

黒木 秀子 (読書教育法アニメーション研究)

2. 一歩進んだ発達障害診療 8月25日(土) 9:00~10:40 ホール D5

座長：市河 茂樹 (安房地域医療センター小児科)

がまん脳は鍛えない -発達障害の脳機能研究-

門田 行史 (国際医療福祉大学病院小児科)

発達障害診療 ~睡眠の視点から~

堀内 史枝 (愛媛大学医学部附属病院長子どものこころセンター)

発達障害の薬物治療と地域へのバトンタッチ

鈴木 雄一 (福島県立医科大学医学部小児科)

3. 軽度外傷の初期診療：クリニックでどう取り組む 8月25日(土) 9:30~11:30 ホール D7

座長：濱田 洋通 (東京女子医科大学八千代医療センター小児科)

植松 悟子 (国立成育医療研究センター救急診療科)

演者：早野 駿佑 (北九州市立八幡病院小児救急センター)

植松 悟子 (国立成育医療研究センター救急診療科)

橋本 祐至 (うさびんこどもクリニック・千葉市立海浜病院小児科)

木村 翔 (埼玉県立小児医療センター集中治療科)

4. 感染症 up to date 8月25日(土) 14:15-15:45 ホール D5

若手・中堅の研究者からの情報発信

座長：石和田 稔彦 (千葉大学真菌医学研究センター感染症制御分野)

演者：長澤 耕男 (東千葉メディカルセンター)

大塚 岳人 (新潟大学小児科)

高梨 さやか (Ohio Agricultural Research Development Center)

5. 希少遺伝性疾患の「早期発見」を考える

8月26日(日) 9:00~10:30

ホール D1

- 座長：原 朋邦 (はらこどもクリニック)
- 演者：本間 りえ (特定非営利活動法人 ALD の未来を考える会)
- 岡崎 俊文 (特定非営利活動法人全国ポンペ病患者と家族の会)
- 奥山 虎之 (国立成育医療研究センターライソゾーム病センター)
- 小橋 孝介 (松戸市立総合医療センター小児科)
- 秋山 奈々 (千葉県こども病院こども・家族支援センター 認定遺伝カウンセラー)

6. 園学校保健シンポジウム

8月26日(日) 9:00~11:30

ガラス棟 G409

- 谷村 聡 (たにむら小児科)

7. 食物アレルギー

8月26日(日) 9:00~11:30

ホール B5

ープライマリーケア医が行うアレルギー診療の向上に向けてー

- 座長：下条 直樹 (千葉大学大学院医学研究院小児病態学)

- 椿 俊和 (つばきこどもクリニック)

病診連携の実際：どのような患者を専門医に紹介するか

- 西本 創 (社会医療法人さいたま市民医療センター小児科)

プライマリーケア医における食物アレルギー診療の実際と課題

- 梅野 英輔 (梅野小児科内科医院)

食物アレルギーの栄養指導と支援

- 原 正美 (昭和女子大学生生活科学部管理栄養学科)

食物アレルギーの予防としての離乳食の進め方

- 福家 辰樹 (国立成育医療研究センター生体防御系内科部アレルギー科)

8. ICT(情報通信技術)は地域医療に何をもたらすか 8月26日(日) 13:15~15:00
ーオンライン診療・相談を中心にー ホール B7

座長：黒木 春郎 (外房こどもクリニック)

橋本 直也 (株式会社 Kids Public 小児科医師)

オンライン診療(遠隔診療)は地域医療に何をもたらすか (仮題)

久米 隼人 (厚生労働省医政局医事課 課長補佐)

オンライン診療の実際 (仮題)

黒木 春郎 (外房こどもクリニック)

オンライン相談 家族は何を求めているのか (仮題)

橋本 直也 (株式会社 Kids Public 小児科医師)

オンライン診療 保護者はどのように受け止めているか (仮題)

佐々木 実輝子 (筑波大学附属病院看護部)

現状と将来 (仮題)

豊田 剛一郎 (株式会社メドレー 代表取締役医師)

地域医療の視点から (仮題)

目々澤 肇 (東京都医師会理事 医療情報担当)

9. 病児保育入門 8月26日(日) 13:15~15:00
ホール D5

座長：大川 洋二 (大川こども & 内科クリニック)

原木 真名 (まなこどもクリニック)

病児保育の考え方

大川 洋二 (大川こども & 内科クリニック)

病児保育開設

佐藤 里美 (病児保育室バンビーノ)

病児保育への疑問

愛着形成

西岡 敦子 (病児保育室レインボーキッズ・西岡医院)

感染対策

佐藤 勇 (病児保育室よいこの森)

安全管理

荒井 宏治 (病児保育室きりん)

17. セミナーのご案内

1. 臨床統計セミナー

8月25日(土) 9:30~11:30
ガラス棟 G610

座長： 富本 和彦 (とみもと小児科クリニック)

講師： 市原 清志 (山口大学大学院医学系研究科病態検査学)

2. 外来小児看護セミナー

8月25日(土) 10:20~11:50
ガラス棟 G602

座長： 藤岡 寛 (茨城県立医療大学保健医療学部小児看護学)

「あれ？」と思う子どもと家族への看護

講師： 石井 由美 (東千葉メディカルセンター)

3. こどもどこセミナー(若手医師・研修医支援委員会主催) 8月25日(土) 14:15~16:45 発達障害(神経発達症(群))の子どもたちとそれを取りまく社会(予定)

ガラス棟 G602

コーディネーター 宮城 孝雄 琉球大学医学部 医学生 (こどもどこ代表)

庄司 夕季乃 日本大学医学部 医学生 (こどもどこ副代表)

サポーター 岡本 茂 若手医師・研修医支援委員会 委員長

*詳細につきましては、こどもどこのHP (<http://kodomodoko.wixsite.com/pediatrics>) で順次、更新してまいります。

4. 質的研究セミナー

8月25日(土) 15:30~16:30
ガラス棟 G507

外来スタッフが研究を行うための具体的方略

座長： 涌水 理恵 (筑波大学医学医療系小児保健看護学)

講師： 藤岡 寛 (茨城県立医療大学保健医療学部小児看護学)

5. 大阪小児科医会・小児在宅医療セミナー

8月26日(日) 10:45~11:45
ホール D1

模擬症例の診療報酬を算定してみよう

講師： 大阪小児科医会 在宅小児医療委員会委員長 春本 常雄 他

6. スタッフ向けセミナー

8月26日(日) 13:15~14:15
ホール D7

座長： 藤森 誠 (藤森小児科)

保育施設の深刻事故予防で外来小児科にお願いしたいこと

講師： 掛札 逸美 (特定非営利活動法人保育の安全研究・教育センター代表 心理学博士)

18. 小児 AMR セミナーのご案内

小児 AMR セミナー 午後の部は要事前申込

8月26日(日) 9:30~15:30
ガラス棟 G402

共催：日本小児感染症学会 AMR 臨床リファレンスセンター

後援：日本小児臨床薬理学会

抗菌薬適正使用の地域展開戦略

- 具 芳明 (AMR 臨床リファレンスセンター)
児玉 和彦 (こだま小児科)
荘司 貴代 (静岡県立こども病院小児感染症科)
堀越 裕歩 (東京都立小児総合医療センター感染症科)
宮入 烈 (国立成育医療研究センター感染症科)
村木 優一 (京都薬科大学医療薬科学系臨床薬剤疫学分野 ほか)

・参加方法

午前 講演 参加自由
午後 ワークショップ形式 事前申込

・概要

薬剤耐性菌：Antimicrobial resistance: AMR の拡大は世界的な問題であり、抗菌薬適正使用は喫緊の課題である。本邦の抗菌薬処方8割を占める経口剤の適正化は、他診療科、薬剤師、市民、行政をまきこんだ地域展開が必要だ。こども達に抗菌薬を残すために、小児科医と感染症専門家は AMR 啓発のリーダーシップを期待される。本プログラムは講義、すでに AMR 対策を開始した地域の戦略紹介、グループ討議を行い、参加者が地域で実践できることをゴールとする。

本セミナーへの参加は日本外来小児科学会年次集会への参加が必要です。

本セミナーの午後のワークショップは小児抗菌薬適正使用加算の施設要件になります。



19. SIGのご案内

Special Interest Group (SIG)

●スペシャル・インタレスト・グループ (SIG = シグ) とは？

あるテーマについて関心を持つ人々が集い、意見・情報交換もしくは課題・目標抽出などを行うセッションです。今後の活動、ワークショップや共同研究のアイデアなど「新しい何か」が生まれる場としてご活用ください。事前参加申込は不要です。途中退出も OK。座席は先着順ですのでご了承ください。

SIG-1 小児プライマリケア 帰してはいけない（帰してしまった）！ 外来患者 ガラス棟 G409
8月25日（土）9:00～10:20

コーディネーター 崎山 弘（崎山小児科 東京都府中市）

SIG-2 Happy！こどものみかた ガラス棟 G409
8月25日（土）10:30～11:50

コーディネーター 笠井 正志（兵庫県立こども病院）
児玉 和彦（こだま小児科 和歌山県）
牟田 広実（いいつかこども診療所 福岡県飯塚市）

**SIG-3 「病院へ行って、〇〇の検査をしてもらって」は禁句である！
保育園・幼稚園・学校との付き合い方 ガラス棟 G409**
8月25日（土）14:15～15:35

コーディネーター 三浦 義孝（みうら小児科医院 岩手県盛岡市）

SIG-4 薬剤師と抗菌薬の適正使用 ガラス棟 G409
～私たちは何をすべきか？ 私たちに何が出来るか？ 見つけ出そう！～
8月25日（土）15:40～17:00

コーディネーター 前田 雅子（まえだ耳鼻科 奈良県橿原市）

SIG-5 Narrative reports ここだけの症例検討会 ガラス棟 G409
8月26日（日）13:15～14:45

コーディネーター 日本外来小児科学会編集委員会

拡大 SIG-1

産後の母子を支援するための赤ちゃんとお母さんにやさしいガイドライン作成を目指して
「小児科医も赤ちゃんの立場から『産後ケア』を考えてみよう！」 ガラス棟 G610
8月25日（土）14:30～16:30

コーディネーター 瀬尾 智子（緑の森こどもクリニック 愛知県岡崎市）

拡大 SIG-2

有志医師による Web プロジェクト
「ML インフルエンザ流行前線情報データベース」のお誘い
～これまでと現状、そしてこれからについて～ ガラス棟 G402
8月25日（土）14:30～16:30

コーディネーター 西藤 成雄（西藤小児科 こどもの呼吸器・アレルギー
クリニック 滋賀県守山市）

20. 前夜セミナーのご案内

1. クリニックにおける労務管理

8月24日(金) 19:00~20:00

ガラス棟 G502

座長：前原 幸治 (まえはら小児科)

講師：薄井 和人 (株式会社川原経営総合センター 社会保険労務士)

2. 外来小児診療における子ども虐待対応

8月24日(金) 19:00~20:00

ガラス棟 G510

講師：小橋 孝介 (松戸市立総合医療センター小児科)



21. スポンサーシップシンポジウム・ ハンズオンセミナーのご案内

1. スポンサーシップシンポジウム 1

8月25日(土) 9:30~11:30

ホール B5

協賛：サノフィ株式会社

接種率をどう上げるか？日本の任意接種ワクチン
～きっと、いろんなヒントが見つかります～

- 座長 太田 文夫 (おおた小児科)
- 演者 改めて考える VPD 予防の重要性 ～まだ残る日本と欧米のワクチンギャップ～
齋藤 昭彦 (新潟大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野)
- 接種率向上につながる保護者への効果的な教育及び指導方法
齋藤 あや (聖路加国際大学大学院看護学研究科)
- ワクチン接種に関する保護者の意識 我々に何が求められているのか？
松山 剛 (ユーカリが丘アレルギーこどもクリニック)
- 接種率向上につながる予防接種業務でのちょっとした工夫
太田 まり子 (おおた小児科)
- 他 1 名予定

2. スポンサーシップシンポジウム 2

8月25日(土) 10:20~11:50

ガラス棟 G701

協賛：株式会社ツムラ

臨床医学の脱構築—システムバイオロジーの視点から

- 座長 犀川 太 (金沢医大小児科)
- 黒木 春郎 (外房こどもクリニック)
- シンポジスト
- オミックスデータと AI は臨床医療をどう変えるのか
清田 純 (理化学研究所)
- システムバイオロジー—生命医学の新しい潮流
松岡 由希子 (Systems Biology Institute)
- システムバイオロジーからみた漢方
黒木 春郎 (外房こどもクリニック)
- 指定発言 谷内江 昭宏 (金沢大学医学部小児科)

3. スポンサーシップシンポジウム 3

8月25日(土) 14:15~15:55

ガラス棟 G701

協賛：バイオガイアジャパン

マイクロバイオーム—子どもの健康と疾患

- 座長 下条 直樹 (千葉大学大学院医学研究院小児病態学)
- 三澤 園子 (千葉大学医学部神経内科)

基調講演	Probiotics affect children' s health Prof. Hania SZAJEWSKA M.D. (The Medical University of Warsaw, Department of Pediatrics) (予定)
講演	マイクロバイオームの基礎 藤田 貢 (近畿大学医学部微生物学教室) プロバイオティクスと小児プライマリケア 久保田 恵巳 (くぼたこどもクリニック) 便秘 服部 益治 (兵庫医科大学病院小児科) 夜泣き

4. スポンサーシップシンポジウム 4

8月26日(日) 9:00~10:30

ガラス棟 G701

協賛：森下仁丹株式会社

本邦乳幼児のビタミンDを考える(仮題)

座長	時田 章史 (クリニックばんびい) 富本 和彦 (とみもと小児科クリニック)
総論	今なぜビタミンDに注目するか? 北中 幸子 (東京大学大学院医学系研究科小児医学講座)
各論	ビタミンD欠乏症：低カルシウム血症や骨変化をきたす病態と診断のポイント 道上 敏美 (大阪府立病院機構大阪母子医療センター研究所環境影響部門) ビタミンD欠乏性くる病の治療と予防 窪田 拓生 (大阪大学大学院医学系研究科小児科学) 「生理的」と思われていた幼児のO脚に潜むビタミンD不足 坂本 優子 (順天堂大学医学部附属練馬病院整形外科) 本邦におけるビタミンD充足状況 東京と静岡から 時田 章史 (クリニックばんびい) 北日本(八戸)から 富本 和彦 (とみもと小児科クリニック)
まとめ	北中 幸子 (東京大学大学院医学系研究科小児医学講座)

5. ハンズオンセミナー **要事前申込**

8月25日(土) 14:15~16:45

ホール B5

協賛：マルホ株式会社

スキンケアを通してこどもや家族を支援するー生活習慣からアレルギー予防までー

座長	原木 真名 (まなこどもクリニック)
講師	椿 俊和 (つばきこどもクリニック・日本アレルギー学会認定指導医) 小林 敬 (中野こどもクリニック 看護師) 塚本 佐知子 (さいわいこどもクリニック 保健師) 宮島 環 (つばきこどもクリニック 看護師)

22. 情報交換会のご案内

●情報交換会

8月25日(土) 17:30～ ホールE

参加無料・事前申込不要

全国から年次集会に参加した医師ならびにメディカルスタッフが一堂に会して、大いに日頃の関心事や新しい情報について語り合う場です。

17:30 までにホールEにお集まりください。パフォーマンス、来賓ご祝辞の順に進行します。

(公財) 松山バレエ団総出演によるパフォーマンス



今年で創立 70 周年を迎える松山バレエ団（総代表:清水哲太郎）は、世界のプリマ森下洋子を擁し、日本を代表するバレエ団として活躍しています。また、松山バレエ学校は全国に支部を持ち、生徒・研究生 2,000 名あまりの活動は常に注目を集めています。

このたび、こどもたちの健康な生活と平和な未来を願って、松山バレエ団の踊り手たちが本学会に参集する皆様に美しいひとときをプレゼントしてくれることになりました。間近で見るクラシックバレエの鍛え抜かれた姿と動きをご堪能ください。

来賓ご祝辞（予定）

各自治体首長様

厚生労働省小児医療担当者様

本学会ご協力者様

海外からのビデオメッセージ ほか

23. 託児室のご案内

申込期間

2018年2月2日(金)～8月10日(金)17:00

会期中、託児室を開設いたします。

ご利用をご希望の方は下記をお読みのうえ、必ず事前にお申し込みください。

■申込期限

8月10日(金)17:00まで

■申込み方法

第28回日本外来小児科学会年次集会(<http://web.apollon.nta.co.jp/sagpj28/>)より、利用規約をお読みのうえ、下記へお申し込みください。

■申込み先

① WEB での予約

下記 URL WEB 予約システムよりログインしていただき、必須事項をご入力の上ご予約ください。

https://cscs.alpha-co.com/event_yoyaku_kihon_form.jsp?E=1151061*JixOL

② お電話での予約

TEL:03-5797-7121 (平日 10:00～17:00)

以下の項目をお伝えください。

- 1) 保護者氏名(よみがな)・連絡先(携帯電話番号含む)・所属
- 2) 託児希望日時
- 3) 子どもの人数・名前(よみがな)・年齢・性別
- 4) 託児上の注意点(アレルギーなど)

ご予約確認後、「利用規約」「利用申込書」をお送りいたします。

※完全予約制となっておりますので、ご予約のない場合にはご利用いただけません。

※定員になり次第締め切らせていただきますので、予めご了承ください。

■保険

不測の事故に対応するために、アルファコーポレーションが保険に加入しており、保険適用範囲で補償いたします。第28回日本外来小児科学会年次集会および運営事務局は事故の責任は負わないことを申し添えます。

- ① がーの場合に備え、弊社加入の損害保険で対応させていただきます。但し、シッターの過失以外の原因、不可抗力の場合はこの限りではありません。
- ② 第28回日本外来小児科学会年次集会ならびに運営事務局は責任を負わないことを了承願います。ご理解の上、申込書に署名捺印をお願いします。

■ご利用資格

第28回日本外来小児科学会年次集会参加者を保護者とする生後3ヵ月～小学校6年生までのお子さま。

■料金

3,000円(税込)／1日・お1人あたり

※おむつなどの実費および上記時間外の延長料金は除きます。

※締切日以降の変更・キャンセルは手数料として全額頂戴いたします。

※ご利用料金は、利用日当日現金にて、おつり銭の必要の無いようお支払ください。

■お持ち物

- ① 保護者の身分証明書（健康保険証・運転免許証など）
- ② 母子健康手帳
- ③ 「託児申込書」（記入捺印の上、利用初日に保育スタッフにお渡しください）
- ④ 学会参加証（ネームカード）
- ⑤ 以下のものを必要に応じてお持ちください。

昼食（12時に託児時間がかかる場合）、おやつ（15時に託児時間がかかる場合）、粉ミルク、哺乳瓶（お湯のご用意はあります）、飲み物（ミネラルウォーターはお出しできます）、おむつ、おしり拭き、着替え、手拭用タオル、ビニール袋数枚（汚れた服入れ用）など。

■お食事

- ① 託児室でお食事の用意はございません。昼食時はお子さまをお迎え頂くか、昼食をお持ちください。
- ② おやつ、お飲み物はすべてお持ちになったものを差し上げます。

■お願い

- ① お子さまのお手洗いを済ませたあと、ご来室ください。
- ② 当日、発熱（37.5℃以上）や感染症など体調不良や、集団保育に適さないと保育スタッフが判断した場合には、お預かりをお断りすることがあります。
- ③ 緊急の場合は、携帯電話による呼び出しをいたします。「託児申込書」に必ず緊急連絡先をご記入ください。また、その際は迅速なご対応をお願いします。
- ④ 保育スタッフによる投薬はいたしかねます。
- ⑤ 送り・迎えとも時間厳守でお願いいたします。
お持ち物にはすべてに名前をご記入ください。ご記名の無いものにつきましては、当社では責任を負いかねます。

■変更・キャンセル

2018年8月10日(金)までに下記連絡先までご連絡ください。

■個人情報の取扱について

- ① 保護管理者：株式会社アルファコーポレーション 管理部長
- ② 利用目的：本サービスにおける保育サービスの提供及び緊急時連絡
- ③ 提供及び委託：アルファコーポレーションと以外の第三者への提供および委託はいたしません
任意性：ご同意いただけなかった場合、ご利用をお受けできない場合がございます

■委託先（お問合せ）

（株）アルファコーポレーション <http://www.alpha-co.com>

（公益社団法人 全国保育サービス協会（ACSA）正会員）

TEL：03-5797-7121 担当：中城（なかじょう）・小椋（こすぎ）

なお、不測の事故に対応するために、シッター会社が保険に加入しており、保険適用範囲で補償いたします。

また学会及び事務局は、事故の責任は負わないことを申し添えます。



24. 宿泊のご案内

申込期間

2018年5月1日(火)～7月30日(金)

■申込期限

お申込み・お支払い・予約の変更・取り消しについて

- ◎ 事前参加登録と同様、年次集会公式ウェブサイト <http://web.apollon.nta.co.jp/sagpj28/> よりお申し込みください。
- ◎ 予約確定後、予約確認メールが届きます。予約内容を確認の上、お支払い期日までにお支払ください。
- ◎ お問い合わせにつきましては、行き違いを避けるため、必ず Email などの書面にてお願いいたします。
- ◎ 御予約の変更・取り返しは年次集会ウェブサイトから操作いただけます。所定の変更・取消料金を差し引いた金額を、後日返金させていただきます。
- ◎ お支払期日：2018年7月30日(金)までにお支払いください。

■宿泊ホテルについて

- ◎ 宿泊設定日：2018年8月24日(金)・8月25日(土)の2日間
- ◎ 会期中周辺ホテルの混雑が予想されます。早めのお申し込みをお勧めいたします。
- ◎ 先着順に受け付けいたします。満室の場合、申し訳ありませんが、空室のある他の施設をご利用ください。

■変更・取消料金

詳細は年次集会ウェブサイトに掲載しておりますので、ご確認ください。

■お支払いについて

お支払方法は、「クレジットカード決済」、「コンビニ決済」「銀行振込み」のいずれかにてお願いいたします。ご希望のお支払い方法をお申し込み時にご選択ください。なお、手数料はお申込者様にてご負担ください。

■お申込み及びお問い合わせ

第 28 回日本外来小児科学会年次集会運営事務局
(株) 日本旅行 ECP 営業部内 MCS センター
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-18-19
虎ノ門マリビル 11F
email : mcs_inq04@nta.co.jp
営業時間：平日 9：30 ～ 17：30 (土日祝休)

25. 日本外来小児科学会への入会手続き

※年次集会会場での入会手続きはできません。

入会を希望される方は、入会申込書に所定の事項を記入した上で、学会事務局へお申込みください。役員会の承認を経て、入会決定を通知します。承認後、入会金と年会費を納入してください。以上の手続き全てが終了した時点で会員となります。

■入会手続き手順

1. 学会公式 web から入会申し込み書をダウンロードしてください。
(<http://www.gairai-shounika.jp/about/docs/nyukai.pdf>)
入会申込書は、当ガイドブックや学会誌などにも添付してありますので、そのコピーでも結構です。
2. 「申込書」の項目に記入し、学会事務局にお送りください。
3. 学会役員会（年 4 回開催）の入会審査で承認されまると、学会事務局より 2 週間以内に承認通知と入会金・年会費請求書をお送りいたします。
4. 入会金 3,000 円と当該年度の年会費を指定口座に納入してください。
年会費は、診療所・病院開設者は 15,000 円、それ以外の方は 10,000 円です。
5. 入会手続き終了です。

<会員の推薦>

推薦文と推薦者署名は必須記載事項ではありません。

<入会金に関して>

入会に関しての諸経費としてお願いします。また、変更にも手数料がかかりますので（個々の会員には請求していませんが）、大学などより出向中の方は、出来れば固定した住所をご登録ください。

<役員会承認に関して>

入会には、役員会での承認が必要です。役員会は基本的には年 4 回（2 月・5 月・8 月・11 月頃）開催されています。

<年会費>

当学会の会計年度は、7 月 1 日から 6 月 30 日までです。

■日本外来小児科学会・事務局（入会事務取扱先）

〒169-0072
東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号
新宿ラムダックスビル
株式会社 春恒社 学会事業部内
Tel: 03-5291-6231 Fax: 03-5291-2176
gairai-shounika@shunkosha.com

入 会 申 込 書

年 月 日

日本外来小児科学会 会長 殿

貴学会の目的に賛同し入会を申し込みます。

ふりがな
氏 名 : 1. 男 2. 女 年 月 日生
(自 署)

□勤務先 : □ 診療所・病院開設者または管理者 名 称
□ 上 記 以 外
【会員種別□にもチェック✓必ず記入して下さい】

市町村名にふりがなを

所 在 地 〒□□□-□□□□ 都道府県 区郡市

TEL : FAX :
E-mail ;

市町村名にふりがなを

□自宅住所 〒□□□-□□□□ 都道府県 区郡市

TEL : FAX :

※勤務先、自宅のどちらかに郵便送付先として✓印を入れて下さい。

職 種 : 1. 小児科医 □専門医 2. 他科の医師 (専門 :)
3. その他 (具体的に)
※ 小児科学会専門医の方は□に✓印をつけて下さい。

所属学会 (医会) : □日本小児科学会 □日本小児保健協会 □ 日本小児科医会
□に✓印をつける □その他 (具体的に)

自 薦 文 (入会して何をしたいかをお書き下さい) :

興味のある分野に✓印をつけてください □診療 □教育 □研究 □社会活動 □その他 ()

※以下 (推薦文、推薦人) は、必須ではありません

推 薦 文 :

ここに _____ 氏を日本外来小児科学会会員に推薦致します。

年 月 日 日本外来小児科学会会員 氏 名 (自署)



(縮小率40%)

血行促進・皮膚保湿剤

ヘパリン類似物質油性クリーム0.3%「日医工」

HEPARINOID OIL-BASED CREAM 0.3%

薬価基準収載

(ヘパリン類似物質油性クリーム) 製造販売元：日医工株式会社

血行促進・皮膚保湿剤

ヘパリン類似物質外用スプレー 0.3%「日医工」

HEPARINOID SPRAY 0.3%

薬価基準収載

(ヘパリン類似物質スプレー) 製造販売元：日医工株式会社

血行促進・皮膚保湿剤

ビーソフテン® ローション0.3%

BESOFTEN® LOTION 0.3%

薬価基準収載

(ヘパリン類似物質ローション) 発売元：日医工株式会社 製造販売元：帝國製薬株式会社

血行促進・皮膚保湿剤

ビーソフテン® クリーム0.3%

BESOFTEN® CREAM 0.3%

薬価基準収載

(ヘパリン類似物質クリーム) 発売元：日医工株式会社 製造販売元：帝國製薬株式会社

※「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等の詳細は添付文書をご参照ください。



MOCHIDA

販売＜資料請求先＞

持田製薬株式会社

東京都新宿区四谷1丁目7番地

☎ 0120-189-522 (くすり相談窓口)

2015年6月作成 (N2,2,7,8)



患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。

病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。

私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていたいと思います。

治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。

病気を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。

「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ



エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。

一緒に歩こう、笑顔へ続く道。

All for your smile

ととろの健康情報局

すまいるナビゲーター



患者さんやご家族を対象に、
子どもの自閉スペクトラム症・
うつ病・双極性障害・統合失調症
の治療、社会参加のために役立つ
制度のことなど、知っていると役に
立つ情報を発信するサイトです。

子どもの自閉スペクトラム症

うつ病

双極性障害

統合失調症

すまいるナビゲーター

検索

<http://www.smilenavigator.jp/>

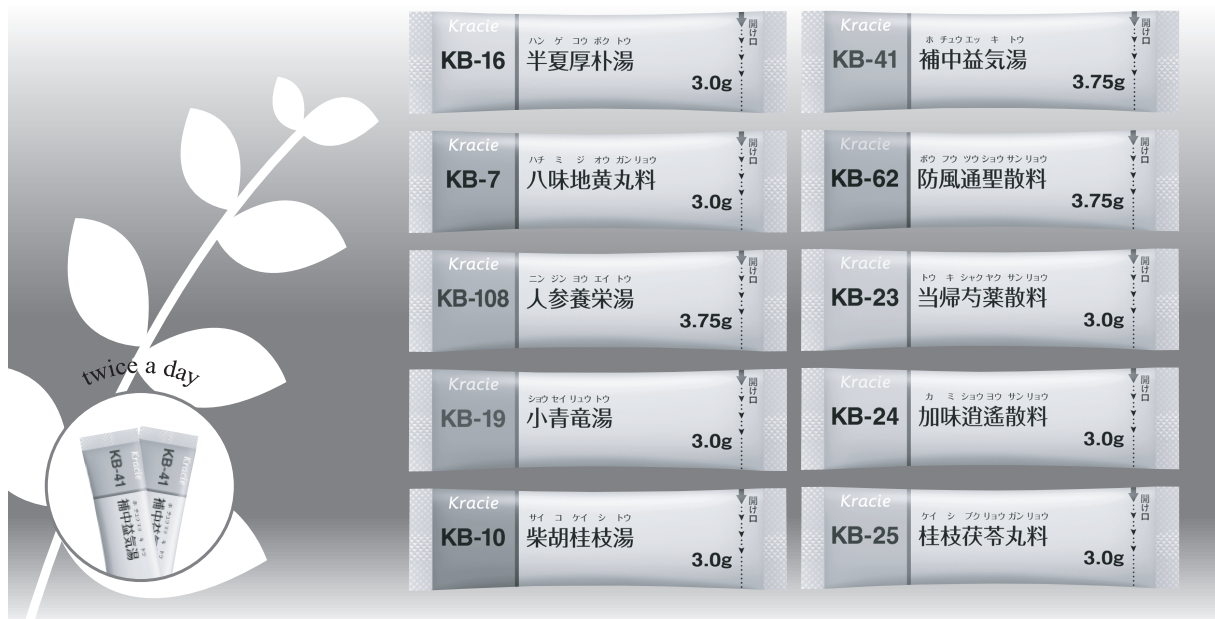
All for your
smile



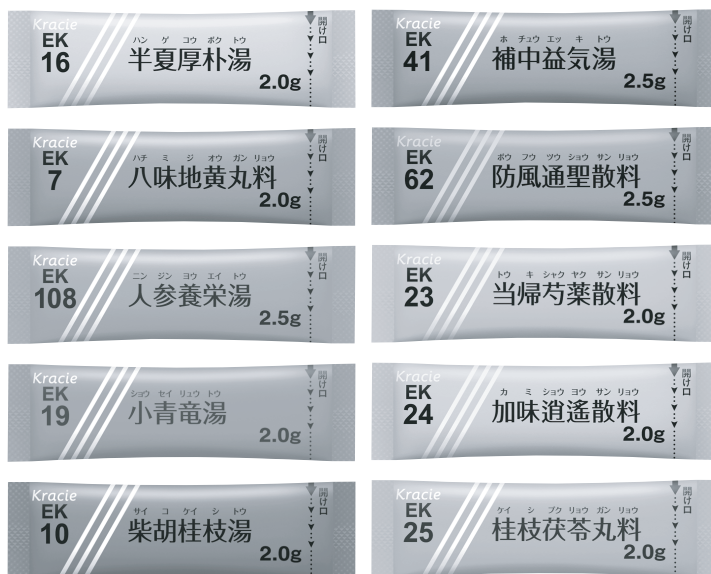
Otsuka 大塚製薬株式会社

Otsuka-people creating new products for better health worldwide

Kracie



twice or three times a day 選べるやさしさ



スティックで、健やかな暮らしへ

クラシエ 薬品株式会社

[資料請求先] 〒108-8080 東京都港区海岸3-20-20

医療用医薬品ウェブサイト 「漢・方・優・美」 <http://www.kampoyubi.jp>

■各製品の「効能・効果」、「用法・用量」、「使用上の注意」等については製品添付文書をご参照ください。